

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

1. 新設組織の入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み	2
(1) 新設組織の入学定員の考え方	2
工学部	3
創生学部	4
(2) 定員を充足する見込み	4
①学生確保の見通しの調査結果	4
工学部	5
創生学部	5
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	5
③同分野を有する競合校の状況	7
ア 競合校の選定理由	7
イ 競合校の入学志願動向等	7
ウ 学生納付金等の金額設定の理由	9
④既設組織の定員充足の状況	9
工学部	9
創生学部	9
2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	10
工学部	10
創生学部	10
3. 社会的要請・人材需要について	11
(1) 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	11
(2) 人材需要に関するアンケート調査等	13

1. 新設組織の入学定員設定の考え方及び定員を充足する見込み

(1) 新設組織の入学定員設定の考え方

少子高齢化が進む日本においては、新たな社会価値を創出できる人材があらゆる分野において不可欠な状況である。また、昨今の急速な産業構造の変化に伴い、SDGs 等社会的課題の解決を図る必要に迫られている。

近年、超スマート社会やデータ駆動型社会実現の機運が急激に高まっており、特に AI、ビッグデータ、IoT 等のデジタル (DX) 技術を活用した社会変革が強く求められている。このような状況の中、日本では高度情報専門人材が不足しており、特に新潟県も含め地方においては、その傾向が顕著である。

このような多様な高度情報専門人材のニーズの高まりなどの社会需要に対応する人材養成を行うことは本学の責務であり、高度な情報通信技術、データサイエンス、デジタル等に精通し、社会的課題に対して融合的な視点を持って解決できる高度情報専門人材の養成を強化する構想を計画し、令和 6 年度大学・高専機能強化支援事業で交付内定を受けた。具体的には、令和 7 年度より、工学部、創生学部、大学院自然科学研究科の入学定員を増員し、高度情報専門人材の養成を充実・強化する。

工学部知能情報システムプログラムは、従来から、先端的高度情報技術を学び、大学院の情報工学コースに進学者を輩出しているが、デジタル人材の育成強化が急務である中、より多くの大学院進学を図ることを目的に定員 5 人の増員をおこなう。増員分は、第 5 次男女共同参画基本計画でも求められている諸外国に比して理工系分野のへ進出が少ない女性の活躍促進を促すため女子枠とする。この変更によりデジタル技術を活かしたソフトなモノづくりに意欲を持つ女子学生の進学率を高め、多様な学生が集う環境をつくり、活力ある教育研究の場において男女問わず次世代型のデジタル人材を育成する。

創生学部では、平成 29 年度の新設以来掲げてきた探究型学修の理念を継続しつつ、さらにデジタルスキルを駆使して現代的な社会課題に即応する学修者を養成するため、創生学部創生学修課程の入学定員を 5 人増員し、DX 共創コース (定員 20 人) を新設する。従来設置していた創生学修コースと新設する DX 共創コースの 2 コースとなるが、人材育成の目標は両コースとも同一であり、学生自らがキャリア形成をイメージし、オーナーシップを持って学修する到達目標創生型の学位プログラムによって、自己の人材価値を能動的に高めていくことができる生涯学修者 (自己創造型学修者) を養成することを目的とする。それぞれの学生が主体的に課題を設定し、その解決に至るためのアプローチを自らデザインして学修を進める点も共通である。両コースの違いは、目標達成へのアプローチにある。創生学修コースは、これまでの創生学修課程の理念を踏襲し、本学に設置している人・法・経・理・工・農のそれぞれの学部の到達目標達成型学位プログラムの豊富な教育資源を活用した学修を進める。一方で、新設する DX 共創コースでは、DX・情報関連の学位プログラムが提供する専門教育資源 (領域パッケージ) に特化した学修内容を提供して、本学情報系の専

門課程と同レベルの学理を修得し、技術的背景を持ちつつも文理融合的視野で課題解決ができる高度情報専門人材を養成する。

なお、大学院自然科学研究科においては定員を15人増員し、高度な情報工学、デジタル技術等の学修を通じ、データサイエンス、デジタルトランスフォーメーションに精通し、課題に対して、文理融合の視点で、解決方法を見出せる人材の養成を目的とした「情報社会デザイン科学コース」を新たに設置する。

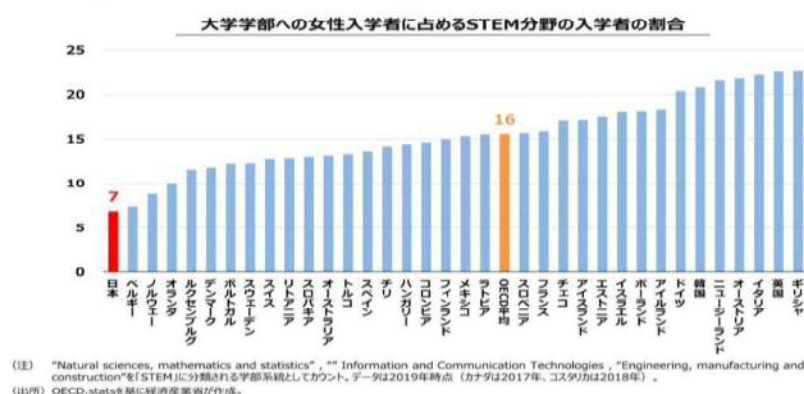
【工学部】

工学部知能情報システムプログラムは、これまでも先端的高度情報技術を修得した専門技術者を多数輩出するとともに、大学院の情報工学コースに進学者を輩出してきたが、現代社会においては、あらゆる分野でDX化が進む中、多様な視点で、産業構造の変革、新たな価値の創出を図る必要があり、STEM分野におけるジェンダーバランスを改善することも急務である。図表1で示すとおり、日本は、高等教育機関での女子学生割合が諸外国に比して著しく低位であり、日本の社会全体のジェンダーバイアス解消の意識の変革が求められている。これらのことを踏まえ、「令和6年度大学・高専機能強化支援事業」に申請し、交付内定を受けた計画のとおり、工学部知能情報システムプログラムの入学定員を5人増員（増員分は学校推薦型の女子枠）し、諸外国に比して理工系分野への進出が少ない女性の活躍促進を促す。新潟大学工学部の過去5年の女子学生割合は工学部全体で12～14%で推移しているが、高度情報専門人材を養成する知能情報システムプログラムは7～8%に留まる。これを引き上げるべく、女子枠5人の増員とした。

女性ならではの視点に立ち、デジタル技術を活かしたソフトなモノづくりに意欲を持つ女子学生を積極的に受け入れることで、理工系分野におけるジェンダーバランス改善効果と、多角的な視点からの新たな社会価値創出が見込まれる。

大学におけるSTEM分野の女性入学者

- 大学に入学する女性のうち、STEM分野に入学者は7%に留まり、諸外国の中でも低位。



図表1：大学におけるSTEM分野の女性入学者の割合

（教育未来創造会議第一次提言（令和4年5月10日）参考データから抜粋）

【創生学部】

「令和6年度大学・高専機能強化支援事業」に申請し、交付内定を受けた計画のとおり、創生学部創生学修課程の入学定員を5人増員し、DX共創コース（定員20人）を新設する。定員設定については、創生学部の新コースを設置するにあたり創生学部入学実績のある高校の在学学生を対象に実施したアンケート調査（資料3）において、DX共創コースと創生学修コースの希望割合を調査したところ、新潟県内外で比較した入学意向者の受験希望コースが次のとおりであった。

創生学部 入学意向者のうち	DX共創コースを 受験したい	創生学修コースを 受験したい	決められないが 受験したい
新潟県内	26人（10.5%）	59人（23.9%）	162人（65.6%）
新潟県外	25人（13.8%）	58人（32.0%）	98人（54.1%）
合計	51人（11.9%）	117人（27.3%）	260人（60.7%）

図表2：創生学部創生学修課程 DX共創コース／創生学修コースの受験希望割合
（創生学部における学生確保に関するアンケート（資料3）抜粋）

上記結果によると、創生学部への入学意向者のうち、DX共創コース受験希望者と創生学修コース受験希望者の割合は、概ね1：2.5の割合であった。情報系の専門科目パッケージを必修とするDX共創コースは、教育の質を担保する観点から入学定員は20人が適正と考えており、上記結果を踏まえて、創生学部の入学定員をDX共創コース20人、創生学修コース50人、合計70人と設定した。

（2）定員を充足する見込み

①学生確保の見通しの調査結果

新潟大学の主な学生募集地域としては、南東北、北関東、長野県等が主となっている。いずれも人口減少率の高い地域ではあるが、DX人材を輩出する情報工学系は、リクルート進学総研が実施した「学問分野別の学科数・定員数・志願者数の状況 2023」（図表3）の系統別の志願倍率でも示されているように、全国的に希望の高い分野である。これは本学が主として学生募集の対象とする地域においても同様であり、情報工学系分野へのニーズは高く、競争性を担保したうえで、定員の充足は可能と考えている。

情報工学分野／全国			東北		
定員	志願者数	志願倍率	定員	志願者数	志願倍率
22,512	258,174	11.47	1,433	5,651	3.94
北関東			甲信越		
定員	志願者数	志願倍率	定員	志願者数	志願倍率
1,459	5,253	3.60	600	1,949	3.25

図表3：情報工学分野の地域別定員数・志願者数の状況（抜粋）

（リクルート進学総研「学問分野別の学科数・定員数・志願者数の状況 2023」より）

【工学部】

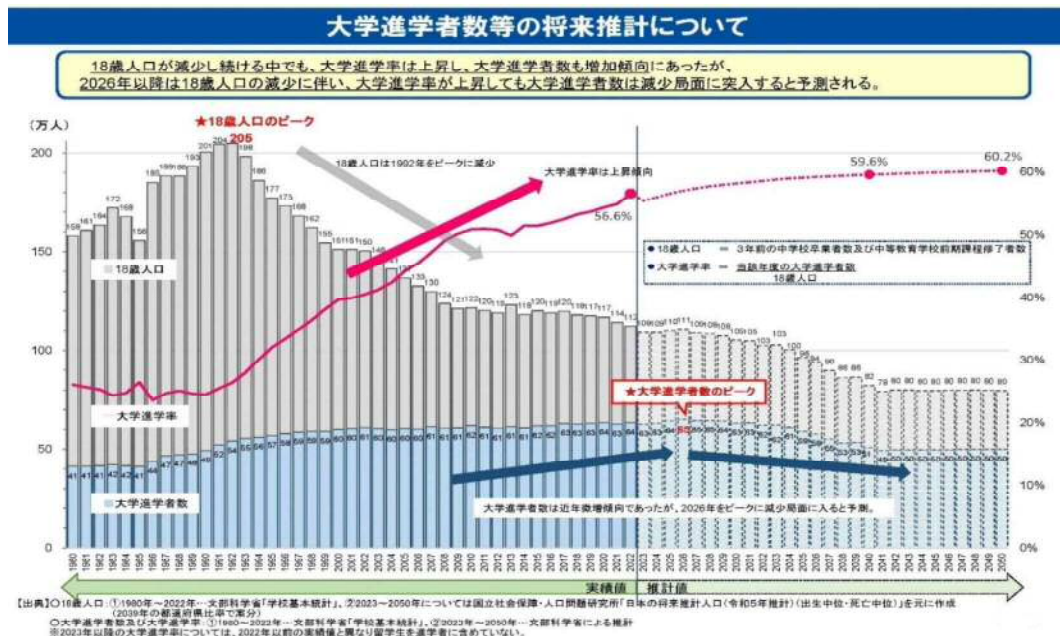
工学部知能情報システムプログラムに女子枠を創設するにあたり、過去に学校推薦型で出願のあった高等学校を対象に、工学部に女子枠を導入することについてアンケートを実施した（資料2）。その結果、入学者選抜において女子枠を設置することは、女子生徒にとってはインセンティブになるという回答が8割以上で、女子枠が創設されたら理工系分野への進学を希望する生徒に応募を勧めたいという回答が9割を超えるなど、女子枠に対して十分な出願を見込める結果であった。

【創生学部】

創生学部の新コースを設置するにあたり創生学部入学実績のある高校の在学学生を対象にしたアンケート調査（資料3）では、「分野の枠を超えた協働の学びで、高度なデータサイエンスや DX・AI などの先端技術について基礎から無理なく身につけることができる」に魅力を感じるとの回答は77.8%であった。DX や情報、データについての横断・融合的な学び、また基礎から実課題解決までのシームレスな学びへのニーズは極めて高いと見られる。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

18歳人口は全国的に減少が進み、図表4で示す将来推計では、2035年には、2025年に比して、約109万から約92万人に減少し、本県においては、約1.9万人から約1.6万人に減（リクルート進学総研18歳人口予測甲信越版（令和5年2月））で、減少率は全国平均を上回り、周辺地域においても同様の傾向である。



図表4：大学進学者数等の将来推計

（中央教育審議会第175回（令和5年10月25日）参考データより抜粋）

一方、学校基本調査をもとに、リクルート進学総研が行った分析結果（図表5）によると、本県の進学率は、2019年から2023年時点では6.9%上昇しており、大学進学者数は上昇傾向である。また、令和5年度の本学工学部、創生学部の志願者の出身高校が所在する都道府県の上位5つは、以下の図表6のとおりであるが、これら新潟県および周辺地域においても、進学率は過去5年間上昇しており、進学者数も概ね増えている。

将来推計値から、進学率が低位な地域においては今後も上昇が見込まれることから、長期的には、18歳人口の減少が進学率の上昇を超えて、進学者数は減少に転じることは避けられないものの、進学率の上昇傾向を踏まえれば緩やかに推移すると見込まれ、今回の増員規模の定員の充足は十分に可能である。

		2019	2020	2021	2022	2023
新潟	大学進学者数	8152	8408	7937	8316	8401
	大学進学率	42.7	44.6	44.9	47.2	49.6
山形	大学進学者数	3726	3912	3821	3924	3780
	大学進学率	37.9	40	40.7	43.6	43.1
福島	大学進学者数	6669	6559	6566	6519	6431
	大学進学率	39.6	39.8	41.6	42.8	44.4
長野	大学進学者数	7428	7791	7878	8122	8154
	大学進学率	40.1	41.9	43.6	46.5	48.4
群馬	大学進学者数	8039	8378	8266	8679	8418
	大学進学率	46.9	48.8	50.1	52.7	53.3
秋田	大学進学者数	3064	3039	3064	2924	2905
	大学進学率	38.6	38.9	41.5	41.4	41.6
栃木	大学進学者数	8359	8313	8394	8348	8456
	大学進学率	48.0	47.9	49.9	50.7	53.3

図表5：新潟県および周辺地域の大学進学者数・進学率

（リクルート進学総研「18歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」より抜粋）

	1	2	3	4	5
工学部	新潟	福島	秋田	栃木	山形
志願者数	505	79	72	66	65
創生学部	新潟	福島	山形	長野	群馬
志願者数	52	12	6	5	4

図表6：本学工学部、創生学部の志願者出身高の所在都道府県上位5県（令和5年度）

③同分野を有する競合校の状況

ア 競合校の選定理由

競合校を分析するにあたり、①本学の主な学生募集地域に所在し、②志願者の学力レベルが同程度であり、③同系統の学科を設置する大学として、工学部では、山形大学、信州大学、富山大学を選定した。創生学部は課題発見・課題解決を設置のコンセプトとしており、③同系統と言える競合校は周辺地域にはないものの、今回、創生学部が設置する DX 共創コースがデータサイエンス・AI 等の技術を基盤とし、人文知も含めた融合的視野で課題発見・解決できる人材を養成するコースであるため、類似性の高い情報系学部等を設置する、群馬大学、宇都宮大学を競合校として選定した（図表 7）。

【工学部】

	新潟大学	山形大学	信州大学	富山大学
入学定員	152	73	170	90
学部・学科	工学部 電子情報分野	工学部情報知 能コース	工学部情報シ ステム工学科	工学部知能情 報工学コース
所在地	新潟県新潟市	山形県米沢市	長野県長野市	富山県富山市

【創生学部】

	新潟大学	群馬大学	宇都宮大学
入学定員	65	170	55
学部・学科	創生学部 創生学修課程	情報学部	データサイエ ンス経営学部
所在地	新潟県新潟市	群馬県前橋市	栃木県宇都宮市

図表 7：本学工学部、創生学部の競合校の状況

イ 競合校の入学志願動向等

各競合校の志願状況（図表 8）を見ると、各年度での変動はあるものの、各校とも 2 倍～4 倍程度の志願状況を保っており、情報系学部のニーズは高いことが伺える。アで述べたようにこれらの競合校は本学の募集地域とも重複するが、どの地域においても当該学科系統へのニーズは高く、工学部 5 人、創生学部 5 人の定員増を含めた定員の確保は十分可能と考えられる。

また、富山大学で行っている女子枠の入試も定員（10 人）が充足しており、工学部に女子枠を導入することについて実施したアンケート（資料 3）での女子枠創設へのポジティブな回答結果を踏まえると、工学部で増員分の 5 人で行う女子枠の入学者選抜についても定員を充足する十分なニーズがあると見込める。

【工学部競合校入学志願動向】

		令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
山形大学 工学部情報・知能 コース (定員 73) 女子枠なし	志願者	147	226	189
	志願倍率	2.0	3.1	2.6
	受験者	119	164	143
	合格者	85	84	78
	入学者	81	78	75
	定員充足率	1.1	1.1	1.0
信州大学 工学部電子情報 システム工学科 (定員 170) 女子枠なし	志願者	538	510	592
	志願倍率	3.1	3.0	3.5
	受験者	394	377	454
	合格者	186	186	184
	入学者	176	171	170
	定員充足率	1.0	1.0	1.0
富山大学 工学部知能情報 工学コース (定員 90) (R3 は 80) R5()は女子枠	志願者	377 (10)	281	426
	志願倍率	4.2(1.0)	3.1	5.3
	受験者	268 (10)	230	303
	合格者	101 (10)	102	88
	入学者	88 (10)	93	82
	定員充足率	1.0	1.0	1.0

【創生学部競合校入学志願動向】

		令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度
群馬大学 情報学部 (定員 170)	志願者	732	613	640
	志願倍率	4.3	3.6	3.8
	受験者	530	486	501
	合格者	193	190	196
	入学者	179	171	183
	定員充足率	1.1	1.0	1.1
宇都宮大学 データサイエンス経営学部 (定員 48)	志願者	志願者 224 志願倍率 4.7 令和 6 年 4 月開設のため令和 6 年度入試 の志願状況のみ記載する		

図表 8：工学部・創生学部競合校の入学志願動向

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」（平成 16 年 3 月 31 日 文部科学省第 16 号）で定める標準額に基づき、「国立大学法人新潟大学授業料その他の費用に関する規程」により、以下のとおり定める。

入学料 282,000 円

授業料 535,800 円

④既設組織の定員充足の状況

【工学部】

資料 1（既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間））で示すとおり、本学の過去 5 年間（H31～R5）の大学全体の平均志願倍率は 3.1 倍である。学部ごとの平均倍率は、工学部では 2.2 倍であり、定員を充足している。

工学部の一般選抜では、5 つの分野からの志望順位を付して出願することが可能で、第一志望が不合格であった場合、第二志望以下での合格が可能である。今回、定員を増員する知能情報システムプログラムを含む情報電子分野は、図表 9 のとおり、特に第一志望の倍率が高い分野であり、定員を充足している。

	入学定員(目安)	志願者※	志願倍率
H31	152	299	2.0
R2	152	387	2.5
R3	152	428	2.8
R4	152	575	3.8
R5	152	425	2.8

図表 9：新潟大学工学部情報電子分野の学生志願状況（H31-R5）

※志願者は一般選抜の情報電子分野の第 1 希望選択者と、特別選抜志願者を含んだ人数。

【創生学部】

創生学部の過去 5 年間の平均志願倍率は 2.6 倍である。各年度での変動はあるものの、一定の水準を保っており、定員を充足している。

直近の令和 6 年度の一般選抜志願倍率は 3.8 倍であり、文理融合の学びを志向する層にも浸透してきていることが伺える。

2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

【工学部】

工学部では、全学的に実施しているオープンキャンパスや高校訪問の実施に加え、学生確保に繋がる高大接続推進活動として、高校からの要請に応じた進路説明会、出前授業、大学見学（施設見学、模擬授業、主専攻プログラム紹介等）を実施する。また、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の運営指導委員や関連指導委員の担当実績もある。これらの機会を通じて、高度情報専門人材を養成する課程の魅力や必要性を説明するとともに、女性の活躍推進が求められていることから工学部の知能情報システムプログラムが女子枠として5人増員されることを周知していく。女子中高生の理系進路選択を支援する取組として、JSTの女子中高生の理系進路選択支援プログラムで整備した理系学部出身女性によるセミナーなどのコンテンツや、理学部、工学部、農学部の理系3学部協同で、各学部で活躍している女子学生へのインタビューおよび座談会形式のビデオコンテンツを用いた広報を展開するほか、課題探求研修やセミナー、理系女子集合イベントなどの企画を通じて女子高生の理系進路選択者の母数を増進することで当該プログラムへの進学希望者の確保に繋げる。さらに、実務家等の女性教員を新規採用し、ロールモデルとする予定である。

これらの取組は、新設の女子枠に対する本学の潜在的な女子受験生への高いPR効果が期待される。さらに、定員増の対象となる工学部学校推薦型選抜Ⅱ型への志願者（過去3年間）がいた高等学校122校に対してアンケートを行った結果、「女子枠の導入が女子学生に対する理工系分野進学のインセンティブになるか」という質問に対しては、「とてもなると思う」「ややなると思う」との回答が合わせて81.3%、さらに、「理工系分野への進学を希望する女子生徒がいた場合に、女子枠への応募を勧めるか」という質問に対して、「とても勧める」「やや勧める」との回答が合わせて91.7%に達している（資料2）。このため、受験生への高いPR効果が、学校推薦枠への志願者増に繋がることは十分に期待できる。したがって、これらの取り組みを着実に実施することで、新規の女子枠5人増を含めた工学部入学定員535人を確保することは十分に実現可能である。

【創生学部】

創生学部では、全学的に実施しているオープンキャンパスや高校訪問の実施に加え、学生確保に繋がる高大接続推進活動として、高校からの要請に応じた進路説明会、大学見学（施設見学、模擬授業、プログラム紹介等）、学生母校訪問を実施する。また、学部案内発送、高大接続ネットワークを活用したメーリングリストによる配信、ホームページ、SNS、YouTubeなど様々な媒体を用いて、ターゲットに応じた継続的な広報を展開する。2023年度入学生アンケート（複数回答）の結果、学部選択の際に参考にしたメディア・イベント等は上位から学部HP(80.0%)、学部案内(60.0%)、大学案内(56.7%)、オープンキャンパス(33.3%)であった。また進路選択の際の相談相手として両親と高校の先生が同率で66.7%、次いで友人知人が30.0%となっており、生徒世代と両親世代両面でのアプローチが肝要である。HPは8割の入学生が参考にしたと回答しており、SNS、YouTube等を世代毎の利用

率も勘案して併用して一層の露出による学部 HP への流入を図る。

また、同アンケート調査によると、文理中間層が 40.3%、大学在学中に文転理転の可能性ありと回答した者が 50.7%と高いのが創生学部の際立った特徴である。この層は早期の文理分けに閉塞感があり、融合的・学際的学びに対する適性の高い層と考えており、ここが創生学部のターゲット層と言える。実際、創生学部の志願理由として順に、幅の広く自由度の高い学び：44.8%、文理融合教育：17.4%、専門を入学後に選択可能：14.9%、課題解決型学修 7.5%となっており、高校生や保護者、高校教員に対し、この特色を前面に出してアピールする。

広報活動については、創生学部として DX 共創コース・創生学修コースの両コースについて、基本的には統一的に実施する。創生学部設置以来の志願者の重心距離（各志願者の居住都道府県庁と新潟県庁間直線距離の平均値）は約 250km と新潟大学としては平均的な値であり、学生募集の広域化の余地はある。

新コースの周知に際して、新潟県内は高校訪問による対面での丁寧な説明を徹底して足場固めを行いつつ、県外に対しては出前講義の実施、学部案内等の郵送や SNS 等での学修内容や魅力の発信を広域的に行うなど、実・仮想空間での多様なアプローチを相補的に用いて学生確保に務める。学生募集地域について、創生学部のような文理融合型・課題解決型の学部に対する潜在的な関心・志願層は全国に広く薄く分布すると考えられることから、少子化を踏まえて地域毎の人口動向には十分に留意し、学生募集地域としてこれまで実績のある南東北、北関東、長野県等のほか、首都圏への浸透を図る。218 校ある SSH 指定校や、約 1/5 の高校が対象となる高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）実施校など、高大接続において特に DX・データサイエンス分野と関連する高校への広報を重視し、効果的な広報に務める。

なお、令和 6 年度入学者選抜（一般前期）の志願状況は、定員 45 名に対し、

- ・理系（個別試験で数学・国語から数学選択） 19 名
- ・理系（個別試験で数学・国語から国語選択） 11 名
- ・文系（個別試験で数学・国語から数学選択） 26 名
- ・文系（個別試験で数学・国語から国語選択） 117 名

であった。志願倍率は 3.84 倍であり、文理融合の重要さが社会的に認識されて類似の理念を掲げる大学・学部等の新設が相次ぐ中、受験生や高校教員の支持を得て競争力を維持している。

文理融合・課題解決型学部本来の魅力の伝達や設置後 8 年の実績、また学生確保に向けてそれらの効果的な可視化を行う等、実・仮想両空間での相互補完的な広報を戦略的に展開することにより、一般選抜および総合型選抜合わせて新規の 5 人増を含めた創生学部入学定員 70 人を確保することは十分に実現可能である。

3. 社会的要請・人材需要について

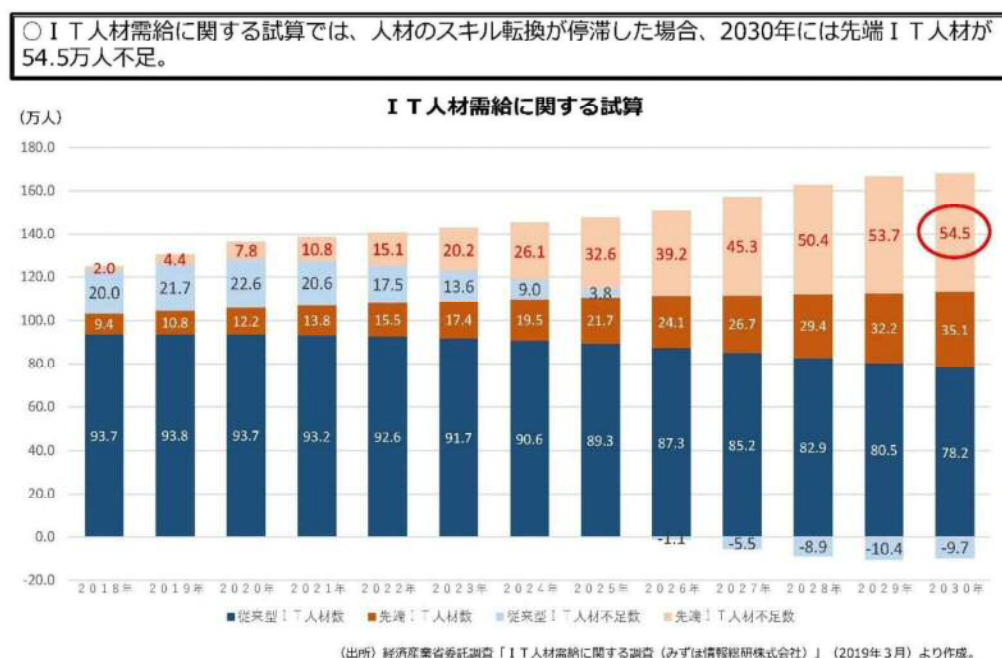
（１）新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

少子高齢化が進む日本においては、労働生産人口の減少は、今後、さらに進み、2040 年

には、18 歳から 64 歳までの人口は現在のおよそ 8 割となり、それは新潟県も含めた地方においてさらに顕著となる。

そうした超少子高齢化社会を迎える中で、産業構造の変化は必然であり、超スマート社会、データ駆動型の社会への変革を実現し、社会的課題の解決、生産性の向上を図るため、AI、ビッグデータ、IoT 等のデジタル技術を活用し、新たな価値観を創出できる人材は、IT 企業のみならず、あらゆる産業において不可欠といえる。

このような中、2030 年には先端 IT 人材が 54.5 万人不足するという調査結果（図表 10）で示すとおり、人材の育成が急務となっており、教育未来創造会議第一次提言において、各大学のデジタル・グリーン等の成長分野への再編が求められている。



図表 10：IT 人材需給に関する試算

（教育未来創造会議第一次提言（令和 4 年 5 月 10 日）参考データから抜粋）

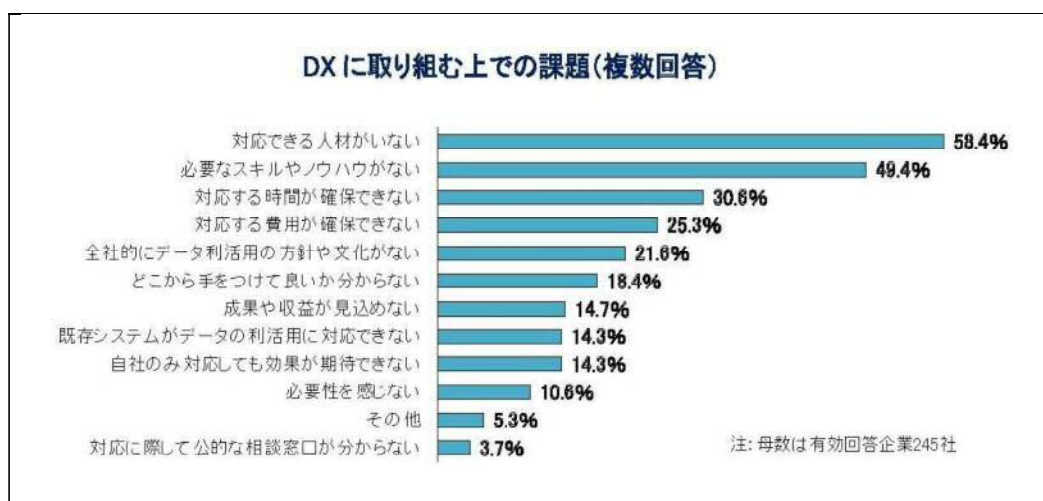
新潟県においても、県の総合計画においてデジタル改革を県の最重要課題ととらえ、地域交通、教育、医療福祉、防災をはじめとした「暮らしにおける DX」、ものづくり、サービス業、建設業、農林水産業など様々な県内産業の振興や高付加価値化につながる「産業における DX」、利用者視点での UI・UX に配慮した行政サービスの提供、県庁内の事務効率化や働き方改革につながる「行政における DX」の 3 つの分野を柱として DX 化を推進している。

こうした動向を踏まえて、新潟大学は、県内企業の DX 化推進のために県内の産学官金で連携して立ち上げた「新潟県 DX 推進プラットフォーム」への参画や、県内の大学、高等専門学校及び企業が連携して様々な業種においてデータサイエンスの知識・技術を用いて活

躍できる人材を育成することを目的として、主導的に「新潟県データサイエンス人材育成協議会」を設立して活動するなど、新潟県のデータサイエンス教育を牽引してきた。今回の改組では、地域社会の人材需要にさらに応えるため、高度情報専門人材の養成を充実・強化する。

（２）人材需要に関するアンケート調査等

労働生産人口の減少が進む地方において、人口減少に起因する生産力の低下という課題に直面し、産業面での DX 化の推進は最重要課題である。しかしながら、新潟県内企業 457 社を対象に実施された帝国データバンクの DX 推進に関する意識調査（図表 11）によると、企業が DX 化への課題として最も多く挙げているのが、DX 人材の不足であった。



図表 11：DX に取り組む上での課題

（帝国データバンク「DX 推進に関する新潟県内企業の意識調査」抜粋）

今回、収容定員を増加する、工学部知能情報システムプログラム、創生学部 DX 共創コースからの大学院の接続（進学）先として、大学院自然科学研究科に新たに「情報社会デザイン科学コース」を設置するにあたり、大学院自然科学研究科からの採用実績がある企業のうち 52 社（回答 26 社）に対し、DX 人材の確保の状況等についてアンケートを行った（資料 4）。

このアンケートの結果によれば、DX 人材の確保が出来ていないとする企業は 77.0%で、その全ての企業で、今後、DX 人材を増やしたいという意向を持っていた。また、DX 人材の確保には 37.0%の企業が新規採用に期待しており、大学院自然科学研究科に新たに設置する「情報社会デザイン科学コース」の修了生には 96.0%の企業が期待するという回答が得られ、人材ニーズは極めて高く、大学院の新コースに接続する、工学部知能情報システムプログラム、創生学部 DX 共創コースが養成する人材の社会的需要は大きいと考えられる。

学生の確保の見通し等を記載した書類 資料

目 次

資料 1	既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）	2
資料 2	工学部女子枠の創設に関するアンケート	
	概要	1 4
	調査内容	1 5
	調査結果	2 1
資料 3	創生学部における学生確保に関するアンケート	
	概要	2 5
	調査内容	2 6
	調査結果	3 6
資料 4	デジタル人材需要に関するアンケート	
	概要	4 5
	調査内容	4 6
	調査結果	5 1

既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）

大学学部学科等名：人文学部人文学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	募集人数	30人	30人	30人	30人	30人	30人
	延べ人数	70人	79人	89人	64人	68人	74人
	志願者数	70人	79人	89人	64人	68人	74人
	受験者数	70人	79人	89人	64人	68人	74人
	合格者数	30人	30人	30人	30人	30人	30人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	70人	79人	89人	64人	68人	74人
	志願者数	70人	79人	89人	64人	68人	74人
	受験者数	70人	79人	89人	64人	68人	74人
	合格者数	30人	30人	30人	30人	30人	30人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
共通テスト利用入試	募集人数	195人	180人	180人	180人	180人	183人
	延べ人数	735人	719人	706人	783人	696人	728人
	志願者数	515人	488人	422人	480人	426人	466人
	受験者数	220人	205人	205人	202人	206人	208人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	15人	20人	16人	14人	23人	18人
	実人数	735人	719人	706人	783人	696人	728人
	志願者数	515人	488人	422人	480人	426人	466人
	受験者数	220人	205人	205人	202人	206人	208人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	205人	185人	189人	188人	183人	190人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	225人	210人	210人	210人	210人	213人
	延べ人数	807人	806人	800人	851人	768人	806人
	志願者数	587人	573人	514人	548人	498人	544人
	受験者数	251人	239人	236人	232人	237人	239人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	15人	21人	16人	14人	23人	18人
	実人数	807人	806人	800人	851人	768人	806人
	志願者数	587人	573人	514人	548人	498人	544人
	受験者数	251人	239人	236人	232人	237人	239人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	15人	21人	16人	14人	23人	18人
	実人数	236人	218人	220人	218人	214人	221人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	225人	210人	210人	210人	210人	213
入 学 定 員 充 足 率	1.05	1.04	1.05	1.04	1.02	1.04
歩 留 率	0.94	0.91	0.93	0.94	0.90	0.93

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2

大学学部学科等名：教育学部学校教員養成課程

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	40人	40人	60人	60人	60人	52人
	延べ人数	90人	59人	84人	93人	100人	85人
	志願者数	90人	59人	84人	93人	100人	85人
	受験者数	90人	59人	84人	93人	100人	85人
	合格者数	40人	36人	49人	36人	55人	43人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	90人	59人	84人	93人	100人	85人
	志願者数	90人	59人	84人	93人	100人	85人
	受験者数	90人	59人	84人	93人	100人	85人
	合格者数	40人	36人	49人	36人	55人	43人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	入学者数	40人	36人	49人	36人	55人	43人
	募集人数	180人	140人	120人	120人	120人	136人
	延べ人数	661人	643人	292人	307人	328人	446人
	志願者数	661人	643人	292人	307人	328人	446人
	受験者数	418人	462人	244人	267人	270人	332人
	合格者数	206人	163人	140人	154人	136人	160人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	16人	7人	4人	5人	2人	7人
	実人数	661人	643人	292人	307人	328人	446人
	志願者数	661人	643人	292人	307人	328人	446人
	受験者数	418人	462人	244人	267人	270人	332人
	合格者数	206人	163人	140人	154人	136人	160人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	16人	7人	4人	5人	2人	7人
共通テスト利用入試	入学者数	190人	156人	136人	149人	134人	153人
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	2人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	220人	180人	180人	180人	180人	188人
	延べ人数	753人	702人	376人	400人	428人	532人
	志願者数	753人	702人	376人	400人	428人	532人
	受験者数	510人	521人	328人	360人	370人	418人
	合格者数	246人	199人	189人	190人	191人	203人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	16人	7人	4人	5人	2人	7人
	実人数	753人	702人	376人	400人	428人	532人
	志願者数	753人	702人	376人	400人	428人	532人
	受験者数	510人	521人	328人	360人	370人	418人
	合格者数	246人	199人	189人	190人	191人	203人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	16人	7人	4人	5人	2人	7人
	入学者数	230人	192人	185人	185人	189人	196人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	220人	180人	180人	180人	180人	188
入 学 定 員 充 足 率	1.05	1.07	1.03	1.03	1.05	1.04
歩 留 率	0.93	0.96	0.98	0.97	0.99	0.97

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2

大学学部学科等名：法学部法学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	107人	110人	130人	139人	115人	120人
	志願者数	107人	110人	128人	139人	115人	120人
	受験者数	51人	52人	54人	53人	52人	52人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	107人	110人	130人	139人	115人	120人
	志願者数	107人	110人	128人	139人	115人	120人
	受験者数	51人	52人	54人	53人	52人	52人
一般選抜	募集人数	130人	120人	120人	120人	120人	122人
	延べ人数	436人	458人	513人	448人	435人	458人
	志願者数	280人	281人	273人	271人	231人	267人
	受験者数	149人	136人	135人	138人	132人	138人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	7人	11人	9人	20人	13人	12人
	実人数	436人	458人	513人	448人	435人	458人
	志願者数	280人	281人	273人	271人	231人	267人
	受験者数	149人	136人	135人	138人	132人	138人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	24人	37人	8人	7人	15人	18人
	志願者数	20人	30人	7人	6人	9人	14人
	受験者数	5人	1人	1人	1人	5人	3人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	24人	37人	8人	7人	15人	18人
	志願者数	20人	30人	7人	6人	9人	14人
	受験者数	5人	1人	1人	1人	5人	3人
合計	募集人数	180人	170人	170人	170人	170人	172人
	延べ人数	567人	605人	651人	594人	565人	596人
	志願者数	407人	421人	408人	416人	355人	401人
	受験者数	205人	189人	190人	192人	189人	193人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	7人	11人	9人	20人	14人	12人
	実人数	567人	605人	651人	594人	565人	596人
	志願者数	407人	421人	408人	416人	355人	401人
	受験者数	205人	189人	190人	192人	189人	193人
入学定員充足率	募集人数	180人	170人	170人	170人	170人	172人
	延べ人数	567人	605人	651人	594人	565人	596人
	志願者数	407人	421人	408人	416人	355人	401人
	受験者数	205人	189人	190人	192人	189人	193人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	7人	11人	9人	20人	14人	12人
	実人数	567人	605人	651人	594人	565人	596人
	志願者数	407人	421人	408人	416人	355人	401人
	受験者数	205人	189人	190人	192人	189人	193人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	180人	170人	170人	170人	170人	172
入 学 定 員 充 足 率	1.10	1.05	1.06	1.01	1.03	1.05
歩 留 率	0.97	0.94	0.95	0.90	0.93	0.94

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2

大学学部学科等名：経済科学部総合経済学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	30人	30人	30人	30人	30人
	延べ人数	0人	41人	69人	46人	58人	54人
	志願者数	0人	41人	69人	46人	58人	53人
	受験者数	0人	30人	30人	30人	30人	30人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	辞退者数	0人	41人	69人	46人	58人	54人
	志願者数	0人	41人	69人	45人	58人	53人
	受験者数	0人	30人	30人	30人	30人	30人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	辞退者数	0人	41人	69人	45人	58人	53人
学校推薦型選抜	募集人数	0人	60人	60人	60人	60人	60人
	延べ人数	0人	114人	93人	88人	123人	105人
	志願者数	0人	114人	93人	88人	123人	105人
	受験者数	0人	61人	63人	60人	60人	61人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	114人	93人	88人	123人	105人
	志願者数	0人	114人	93人	88人	123人	105人
	受験者数	0人	61人	63人	60人	60人	61人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	114人	93人	88人	123人	105人
一般選抜	募集人数	0人	61人	63人	60人	60人	61人
	延べ人数	0人	260人	260人	260人	260人	260人
	志願者数	0人	991人	808人	1199人	1055人	1013人
	受験者数	0人	967人	788人	1168人	1028人	988人
	合格者数	0人	345人	333人	346人	341人	341人
	うち追加合格者数	0人	64人	33人	43人	44人	46人
	辞退者数	0人	95人	77人	86人	81人	85人
	志願者数	0人	991人	808人	1199人	1055人	1013人
	受験者数	0人	967人	788人	1168人	1028人	988人
	合格者数	0人	345人	333人	346人	341人	341人
	うち追加合格者数	0人	64人	33人	43人	44人	46人
	辞退者数	0人	95人	77人	86人	81人	85人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	250人	256人	260人	260人	257人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	#DIV/0!
	延べ人数	0人	6人	6人	4人	6人	6人
	志願者数	0人	6人	4人	2人	5人	4人
	受験者数	0人	1人	1人	1人	0人	1人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	6人	6人	4人	6人	6人
	志願者数	0人	6人	4人	2人	5人	4人
	受験者数	0人	1人	1人	1人	0人	1人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	6人	6人	4人	6人	6人
欠員補充第二次募集	募集人数	0人	322人	0人	0人	0人	322人
	延べ人数	0人	321人	0人	0人	0人	321人
	志願者数	0人	8人	0人	0人	0人	8人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	322人	0人	0人	0人	322人
	志願者数	0人	321人	0人	0人	0人	321人
	受験者数	0人	8人	0人	0人	0人	8人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	322人	0人	0人	0人	322人
合計	募集人数	0人	350人	350人	350人	350人	350人
	延べ人数	0人	1468人	976人	1337人	1242人	1256人
	志願者数	0人	1443人	954人	1303人	1214人	1229人
	受験者数	0人	445人	427人	437人	431人	435人
	合格者数	0人	64人	33人	43人	44人	46人
	うち追加合格者数	0人	95人	77人	87人	81人	85人
	辞退者数	0人	1468人	976人	1337人	1236人	1254人
	志願者数	0人	1443人	954人	1303人	1209人	1227人
	受験者数	0人	445人	427人	437人	431人	435人
	合格者数	0人	64人	33人	43人	44人	46人
	うち追加合格者数	0人	95人	77人	87人	81人	85人
	辞退者数	0人	1468人	976人	1337人	1236人	1254人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員		350人	350人	350人	350人	350人
入 学 定 員 充 足 率	#DIV/0!	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
歩 留	#DIV/0!	0.69	0.76	0.73	0.74	0.73

（備考）

平成31年度時点では経済学部であったため、記載なし。平均値は各種の入学者選抜を実施した年度に絞り、計算している。
令和2年度においては欠員補充で第二次募集があったため、別途欄を作成。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2

大学学部学科等名：理学部理学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	5人	5人	5人	5人
	延べ人数	0人	0人	12人	1人	4人	6人
	志願者数	0人	0人	12人	1人	4人	6人
	受験者数	0人	0人	8人	1人	3人	4人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	12人	1人	4人	6人
	志願者数	0人	0人	12人	1人	4人	6人
	受験者数	0人	0人	8人	1人	3人	4人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	35人	35人	35人	35人	35人	35人
	延べ人数	76人	93人	93人	85人	73人	84人
	志願者数	76人	93人	93人	85人	71人	84人
	受験者数	42人	42人	41人	51人	40人	43人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	76人	93人	93人	85人	73人	84人
	志願者数	76人	93人	93人	85人	71人	84人
	受験者数	42人	42人	41人	51人	40人	43人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	募集人数	165人	165人	160人	160人	160人	162人
	延べ人数	302人	386人	350人	375人	342人	351人
	志願者数	242人	253人	229人	269人	236人	246人
	受験者数	178人	188人	177人	165人	179人	177人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	15人	17人	13人	9人	13人	13人
	実人数	302人	386人	350人	375人	342人	351人
	志願者数	242人	253人	229人	269人	236人	246人
	受験者数	178人	188人	177人	165人	179人	177人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	1人	2人	2人	5人	2人	2人
	志願者数	1人	0人	1人	3人	2人	1人
	受験者数	0人	0人	1人	1人	1人	1人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	1人	2人	2人	5人	2人	2人
	志願者数	1人	0人	1人	3人	2人	1人
	受験者数	0人	0人	1人	1人	1人	1人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	200人	200人	200人	200人	200人	200人
	延べ人数	379人	481人	457人	466人	421人	441人
	志願者数	319人	346人	335人	358人	313人	334人
	受験者数	220人	230人	227人	218人	223人	224人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	15人	17人	13人	9人	13人	13人
	実人数	379人	481人	457人	466人	421人	441人
	志願者数	319人	346人	335人	358人	313人	334人
	受験者数	220人	230人	227人	218人	223人	224人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	15人	17人	13人	9人	13人	13人
	実人数	205人	213人	214人	209人	210人	210人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	200人	200人	200人	200人	200人	200
入 学 定 員 充 足 率	1.03	1.07	1.07	1.05	1.05	1.05
歩 留 率	0.93	0.93	0.94	0.96	0.94	0.94

（備考）

平均値は各種の入学者選抜を実施した年度に絞り、計算している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2

大学学部学科等名：医学部医学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	37人	42人	47人	53人	60人	48人
	延べ人数	133人	144人	125人	163人	194人	152人
	志願者数	132人	144人	125人	163人	193人	151人
	受験者数	37人	42人	47人	53人	60人	48人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	133人	144人	125人	163人	194人	152人
	志願者数	132人	144人	125人	163人	193人	151人
	受験者数	37人	42人	47人	53人	60人	48人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	募集人数	85人	80人	80人	80人	80人	81人
	延べ人数	508人	344人	307人	347人	344人	370人
	志願者数	291人	274人	256人	265人	265人	270人
	受験者数	87人	81人	84人	84人	89人	85人
	合格者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	うち追加合格者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	辞退者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	実人数	508人	344人	307人	347人	344人	370人
	志願者数	291人	274人	256人	265人	265人	270人
	受験者数	87人	81人	84人	84人	89人	85人
	合格者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	うち追加合格者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	122人	122人	127人	133人	140人	129人
	延べ人数	641人	490人	434人	511人	542人	524人
	志願者数	423人	419人	382人	429人	460人	423人
	受験者数	124人	123人	131人	137人	149人	133人
	合格者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	うち追加合格者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	辞退者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	実人数	641人	490人	434人	511人	542人	524人
	志願者数	423人	419人	382人	429人	460人	423人
	受験者数	124人	123人	131人	137人	149人	133人
	合格者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	うち追加合格者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	辞退者数	2人	1人	4人	4人	9人	4人
	入学者数	122人	122人	127人	133人	140人	129人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	122人	122人	127人	133人	140人	128.8
入 学 定 員 充 足 率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
歩 留 率	0.97	0.98	0.94	0.94	0.89	0.94

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2

大学学部学科等名：医学部保健学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	42人	42人	52人	52人	52人	48人
	延べ人数	126人	179人	172人	158人	167人	160人
	志願者数	126人	179人	172人	158人	166人	160人
	受験者数	42人	42人	53人	53人	52人	48人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	126人	179人	172人	158人	167人	160人
	志願者数	126人	179人	172人	158人	166人	160人
	受験者数	42人	42人	53人	53人	52人	48人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	42人	42人	53人	53人	52人	48人
	募集人数	111人	111人	108人	108人	108人	109人
	延べ人数	304人	551人	490人	423人	469人	447人
	志願者数	183人	381人	286人	244人	299人	279人
	受験者数	126人	130人	120人	116人	118人	122人
	合格者数	3人	5人	7人	1人	1人	3人
	うち追加合格者数	9人	12人	11人	10人	9人	10人
	辞退者数	304人	551人	490人	423人	469人	447人
	実人数	183人	381人	286人	244人	299人	279人
	志願者数	126人	130人	120人	116人	118人	122人
	受験者数	3人	5人	7人	1人	1人	3人
	うち追加合格者数	9人	12人	11人	10人	9人	10人
共通テスト利用入試	辞退者数	117人	118人	109人	106人	109人	112人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	辞退者数	1人	0人	0人	2人	1人	1人
	入学者数	164人	160人	160人	160人	160人	161人
	募集人数	438人	733人	666人	585人	637人	612人
	延べ人数	317人	563人	462人	406人	466人	443人
	志願者数	169人	172人	173人	171人	171人	171人
	受験者数	3人	5人	7人	1人	1人	3人
	合格者数	9人	12人	11人	10人	9人	10人
	うち追加合格者数	438人	733人	666人	585人	637人	612人
	実人数	317人	563人	462人	406人	466人	443人
	志願者数	169人	172人	173人	171人	171人	171人
	受験者数	3人	5人	7人	1人	1人	3人
	合格者数	9人	12人	11人	10人	9人	10人
	うち追加合格者数	160人	160人	162人	161人	162人	161人
	辞退者数	160人	160人	162人	161人	162人	161人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	160人	160人	160人	160人	160人	160
入 学 定 員 充 足 率	1.00	1.00	1.01	1.01	1.01	1.01
歩 留 率	0.93	0.90	0.90	0.94	0.94	0.92

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2

大学学部学科等名：歯学部歯学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	10人	10人	8人	8人	8人	9人
	延べ人数	26人	20人	26人	27人	10人	22人
	志願者数	26人	20人	26人	27人	10人	22人
	受験者数	9人	9人	8人	8人	5人	8人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	26人	20人	26人	27人	10人	22人
	志願者数	26人	20人	26人	27人	10人	22人
	受験者数	9人	9人	8人	8人	5人	8人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	入学者数	9人	9人	8人	8人	5人	8人
	募集人数	30人	30人	32人	32人	32人	31人
	延べ人数	182人	258人	256人	292人	211人	240人
	志願者数	118人	181人	145人	156人	126人	145人
	受験者数	35人	36人	33人	38人	41人	37人
	合格者数	4人	5人	1人	5人	4人	4人
	うち追加合格者数	4人	5人	1人	6人	6人	4人
	辞退者数	182人	258人	256人	292人	211人	240人
	志願者数	118人	181人	145人	156人	126人	145人
	受験者数	35人	36人	33人	38人	41人	37人
	合格者数	4人	5人	1人	5人	4人	4人
	うち追加合格者数	4人	5人	1人	6人	6人	4人
	辞退者数	31人	31人	32人	32人	35人	32人
共通テスト利用入試	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	1人	0人	0人	3人	1人	1人
	志願者数	1人	0人	0人	3人	0人	1人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	1人	0人	0人	3人	1人	1人
	志願者数	1人	0人	0人	3人	0人	1人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	209人	278人	282人	322人	222人	263人
	志願者数	145人	201人	171人	186人	136人	168人
	受験者数	44人	45人	41人	46人	46人	44人
	合格者数	4人	5人	1人	5人	4人	4人
	うち追加合格者数	4人	5人	1人	6人	6人	4人
	辞退者数	209人	278人	282人	322人	222人	263人
	志願者数	145人	201人	171人	186人	136人	168人
	受験者数	44人	45人	41人	46人	46人	44人
	合格者数	4人	5人	1人	5人	4人	4人
	うち追加合格者数	4人	5人	1人	6人	6人	4人
	辞退者数	40人	40人	40人	40人	40人	40人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入 学 定 員 充 足 率	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
歩 留 率	0.83	0.80	0.95	0.78	0.80	0.83

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2

大学学部学科等名：歯学部口腔生命福祉学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5人
	延べ人数	7人	9人	9人	14人	11人	10人
	志願者数	7人	9人	9人	14人	11人	10人
	受験者数	7人	9人	9人	14人	11人	10人
	合格者数	3人	4人	5人	5人	5人	4人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	7人	9人	9人	14人	11人	10人
	志願者数	7人	9人	9人	14人	11人	10人
	受験者数	7人	9人	9人	14人	11人	10人
	合格者数	3人	4人	5人	5人	5人	4人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	募集人数	15人	15人	15人	15人	15人	15人
	延べ人数	55人	35人	38人	39人	33人	40人
	志願者数	55人	35人	38人	39人	33人	40人
	受験者数	52人	30人	31人	31人	24人	34人
	合格者数	19人	18人	17人	17人	16人	17人
	うち追加合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	2人	2人	1人	1人	1人
	実人数	55人	35人	38人	39人	33人	40人
	志願者数	55人	35人	38人	39人	33人	40人
	受験者数	52人	30人	31人	31人	24人	34人
	合格者数	19人	18人	17人	17人	16人	17人
	うち追加合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	62人	44人	47人	53人	44人	50人
	志願者数	62人	44人	47人	53人	44人	50人
	受験者数	59人	39人	40人	45人	35人	44人
	合格者数	22人	22人	22人	22人	21人	22人
	うち追加合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	2人	2人	1人	1人	1人
	実人数	62人	44人	47人	53人	44人	50人
	志願者数	62人	44人	47人	53人	44人	50人
	受験者数	59人	39人	40人	45人	35人	44人
	合格者数	22人	22人	22人	22人	21人	22人
	うち追加合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	2人	2人	1人	1人	1人
	入学者数	21人	20人	20人	21人	20人	20人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	20人	20人	20人	20人	20人	20
入 学 定 員 充 足 率	1.05	1.00	1.00	1.05	1.00	1.02
歩 留 率	0.95	0.87	0.91	0.95	0.95	0.93

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2

大学学部学科等名：工学部工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	27人	27人	27人	27人	27人
	延べ人数	0人	40人	48人	63人	55人	52人
	志願者数	0人	39人	48人	62人	55人	51人
	受験者数	0人	21人	22人	20人	23人	22人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	40人	48人	63人	55人	52人
	志願者数	0人	39人	48人	62人	55人	51人
	受験者数	0人	21人	22人	20人	23人	22人
学校推薦型選抜	募集人数	110人	133人	133人	133人	133人	128人
	延べ人数	144人	194人	183人	171人	197人	178人
	志願者数	143人	194人	183人	170人	196人	177人
	受験者数	101人	128人	114人	114人	138人	119人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	144人	194人	183人	171人	197人	178人
	志願者数	143人	194人	183人	170人	196人	177人
	受験者数	101人	128人	114人	114人	138人	119人
一般選抜	募集人数	420人	370人	370人	370人	370人	380人
	延べ人数	692人	927人	985人	1144人	914人	932人
	志願者数	545人	665人	742人	877人	707人	707人
	受験者数	464人	410人	433人	443人	403人	431人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	28人	26人	31人	30人	25人	28人
	実人数	692人	927人	985人	1144人	914人	932人
	志願者数	545人	665人	742人	877人	707人	707人
	受験者数	464人	410人	433人	443人	403人	431人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	21人	18人	24人	14人	18人	19人
	志願者数	16人	14人	17人	11人	13人	14人
	受験者数	8人	8人	3人	3人	3人	5人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	2人	0人	1人	0人	1人
	辞退者数	21人	18人	24人	14人	18人	19人
	志願者数	16人	14人	17人	11人	13人	14人
	受験者数	8人	8人	3人	3人	3人	5人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	530人	530人	530人	530人	530人	530人
	延べ人数	857人	1179人	1240人	1392人	1184人	1170人
	志願者数	704人	912人	990人	1120人	971人	939人
	受験者数	573人	567人	572人	580人	567人	572人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	28人	28人	31人	31人	25人	29人
	辞退者数	857人	1179人	1240人	1392人	1184人	1170人
	志願者数	704人	912人	990人	1120人	971人	939人
	受験者数	573人	567人	572人	580人	567人	572人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	530人	530人	530人	530人	530人	530
入 学 定 員 充 足 率	1.03	1.02	1.02	1.04	1.02	1.02
歩 留 率	0.95	0.95	0.95	0.95	0.96	0.95

（備考）
平均値は各種の入学者選抜を実施した年度に絞り、計算している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）

別紙 2

大学学部学科等名：農学部農学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	34人	34人	34人	34人	34人	34人
	延べ人数	80人	99人	80人	74人	82人	83人
	志願者数	80人	97人	80人	74人	82人	83人
	受験者数	37人	36人	34人	35人	33人	35人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	80人	99人	80人	74人	82人	83人
	志願者数	80人	97人	80人	74人	82人	83人
	受験者数	37人	36人	34人	35人	33人	35人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	入学者数	37人	36人	34人	35人	33人	35人
	募集人数	141人	141人	141人	141人	141人	141人
	延べ人数	353人	422人	327人	486人	324人	382人
	志願者数	291人	274人	235人	312人	217人	266人
	受験者数	149人	152人	156人	156人	156人	154人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	7人	10人	8人	11人	9人	9人
	実人数	353人	422人	327人	486人	324人	382人
	志願者数	291人	274人	235人	312人	217人	266人
	受験者数	149人	152人	156人	156人	156人	154人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
共通テスト利用入試	入学者数	142人	142人	148人	145人	147人	145人
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	2人	1人	0人	2人	2人	1人
	志願者数	2人	1人	0人	0人	1人	1人
	受験者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	2人	1人	0人	2人	2人	1人
	志願者数	2人	1人	0人	0人	1人	1人
	受験者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	入学者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	175人	175人	175人	175人	175人	175人
	延べ人数	435人	522人	407人	562人	408人	467人
	志願者数	373人	372人	315人	386人	300人	349人
	受験者数	186人	189人	190人	191人	189人	189人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	7人	10人	8人	11人	9人	9人
	実人数	435人	522人	407人	562人	408人	467人
	志願者数	373人	372人	315人	386人	300人	349人
	受験者数	186人	189人	190人	191人	189人	189人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	7人	10人	8人	11人	9人	9人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平 均
入 学 定 員	175人	175人	175人	175人	175人	175
入 学 定 員 充 足 率	1.02	1.02	1.04	1.03	1.03	1.03
歩 留 率	0.96	0.95	0.96	0.94	0.95	0.95

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2

大学学部学科等名：創生学部創生学修課程

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	0人	0人	34人	26人	29人	30人
	志願者数	0人	0人	34人	26人	29人	30人
	受験者数	0人	0人	22人	20人	24人	22人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	34人	26人	29人	30人
	志願者数	0人	0人	33人	26人	28人	29人
	受験者数	0人	0人	22人	20人	24人	22人
学校推薦型選抜	募集人数	10人	10人	0人	0人	0人	10人
	延べ人数	36人	33人	0人	0人	0人	35人
	志願者数	36人	33人	0人	0人	0人	35人
	受験者数	11人	11人	0人	0人	0人	11人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	36人	33人	0人	0人	0人	35人
	志願者数	36人	33人	0人	0人	0人	35人
	受験者数	11人	11人	0人	0人	0人	11人
一般選抜	募集人数	55人	55人	45人	45人	45人	49人
	延べ人数	173人	240人	101人	96人	73人	137人
	志願者数	128人	180人	87人	87人	61人	109人
	受験者数	60人	59人	47人	49人	45人	52人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	3人	3人	2人	2人	2人	2人
	実人数	173人	240人	101人	96人	73人	137人
	志願者数	128人	180人	87人	87人	61人	109人
	受験者数	60人	59人	47人	49人	45人	52人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	65人	65人	65人	65人	65人	65人
	延べ人数	209人	273人	135人	122人	102人	168人
	志願者数	164人	213人	120人	113人	89人	140人
	受験者数	71人	70人	69人	69人	69人	70人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	3人	3人	2人	2人	2人	2人
	実人数	209人	273人	135人	122人	102人	168人
	志願者数	164人	213人	120人	113人	89人	140人
	受験者数	71人	70人	69人	69人	69人	70人

3. 入学定員充足率

	H31年度入試	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	平均
入学定員	65人	65人	65人	65人	65人	65
入学定員充足率	1.05	1.03	1.03	1.03	1.03	1.03
歩留率	0.96	0.96	0.97	0.97	0.97	0.97

（備考）

平均値は各種の入学者選抜を実施した年度に絞り、計算している。

工学部女子枠の創設に関するアンケート

調査目的：工学部女子枠の創設に対する意見収集、ニーズ把握のため

調査方法：Web によるオンラインアンケート

調査対象：直近 3 年間で新潟大学工学部への入学志願者が 1 名以上存在する高等学校
(122 校) の進路指導担当教諭

調査期間：2023 年 11 月 30 日～12 月 20 日

回答数：48 校

令和5年11月30日

各 高 等 学 校 長 様
進路指導ご担当者 様

新潟大学工学部長
鈴 木 孝 昌

新潟大学工学部特別選抜女子枠（仮称・新設構想中）に関するアンケートへのご協力について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

新潟大学では、令和7年度工学部特別選抜試験より女子枠設置を構想しております。

工学部は、日本海側に位置する中核高等教育機関として工学教育を担ってきました。今年度で創立100周年を迎え、これまで世に送り出してきた約3万人の人材は我が国の高度経済成長を形あるハードなモノづくりで支えてまいりました。しかし近年では、データサイエンスの知識やデジタル（DX）技術を活用し、世の中に变革を起こせる人材、地球温暖化や環境破壊を身近な問題として捉え、カーボンニュートラルやSDGsをソフトなモノづくりで具現化できる人材が必要とされております。このような背景の中、女性ならではの視点に立ち、ソフトなモノづくりに意欲を持つ女子学生を積極的に受け入れたいと考えました。意欲や向上心のある女子学生の増加は工学部内におけるジェンダーバランス改善効果をもたらし、教育研究の場に活力が生まれることも期待されます。

つきましては、女子枠導入に関する進路指導ご担当の先生のお考えや率直なご意見をお伺いし、入試制度改革の参考資料とさせていただきたく、アンケートへのご協力についてよろしくお願いいたします。

なお、このアンケートで得られました情報や回答内容は、女子枠設置に関する検討の目的以外には使用いたしません。また、アンケートに関する事項はすべて予定です。アンケートの結果を受けて内容が変更になる可能性がありますのでご了承願います。

謹 白

（裏面へ続く）

アンケート回答方法

- ① 次ページの URL よりアンケートサイトへ移動します。
- ② アンケート項目に従って、入力やチェックをお願いします。
- ③ アンケート最後のページから、送信ボタンをクリックしてください。

<https://forms.office.com/r/84MryhEWwj>

お忙しいところ恐れ入りますが、2023 年 12 月 20 日（水）までにご入力いただけますと幸いです。



新潟大学工学部特別選抜女子枠（仮称・新設構想中）に関するアンケート【締切：2023年12月20日(水)】

新潟大学では、令和7年度工学部特別選抜試験より女子枠設置を構想しております。

新潟大学工学部は、日本海側に位置する中核高等教育機関として工学教育を担ってきました。今年度で創立100周年を迎え、これまで世に送り出してきた約3万人の人材は我が国の高度経済成長を形作るハードなモノづくりで支えてまいりました。しかし近年では、データサイエンスの知識やデジタル（DX）技術を活用し、世の中に革新を起こせる人材、地球温暖化や環境破壊を身近な問題として捉え、カーボンニュートラルやSDGsをソフトなモノづくりで具現化できる人材が必要とされております。このような背景の中、女性ならではの視点に立ち、ソフトなモノづくりに意欲を持つ女子学生を積極的に受け入れたいと考えました。意欲や向上心のある女子学生の増加は工学部内におけるジェンダーバランス改善効果をもたらし、教育研究の場に活力が生まれることも期待されます。

つきましては、女子枠導入に関する進路指導ご担当の先生のお考えや率直なご意見をお伺いし、入試制度改革の参考資料とさせていただきます。アンケートへのご協力についてよろしくお願いいたします。

なお、このアンケートで得られました情報や回答内容は、女子枠設置に関する検討の目的以外には使用いたしません。また、アンケートに関する事項はすべて予定です。アンケートの結果を受けて内容が変更になる可能性がありますのでご了承ください。

* 必須

1. 高校名をご入力ください。*

2. 高校所在地（都道府県名）をご入力ください。*

入力例：東京都，北海道，大阪府，新潟県

3. 公私の別をご選択ください。*

☐ 国立☐ 公立☐ 私立

4. 御校で設置している学科をご選択ください。（複数回答可）*

☐ 普通科☐ 理数科☐ 工業科☐ その他

5. 女子枠（仮称・新設構想中）の導入は、女子生徒に対する理工系分野進学へのインセンティブになるでしょうか。*

☐ とてもなると思う☐ ややなると思う☐ あまりならないと思う☐ まったくならないと思う

6. 5の選択肢を選んだ理由をご入力ください。（自由記述）

7. 理工系分野への進学を希望する女子生徒がいた場合、女子枠への応募を勧めていただけますでしょうか。*

- ☐ とても勧める
- ☐ やや勧める
- ☐ どちらでもない
- ☐ あまり勧めない
- ☐ まったく勧めない

8. 7の選択肢を選んだ理由をご入力ください。（自由記述）

9. 女子生徒へ理工系分野への進学を勧める上で、入試において妨げとなっていることがあれば、ご教示ください。（自由記述）

10. 特別選抜における女子枠の導入について、ご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。（自由記述）

このコンテンツは Microsoft によって作成または承認されたものではありません。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。



1. 女子枠(仮称・新設構想中)の導入は、女子生徒に対する理工系分野進学へのインセンティブになるでしょうか。

	人数(人)	割合(%)
とてもなると思う	15	31.3
ややなると思う	24	50.0
あまりならないと思う	8	16.7
まったくならないと思う	1	2.1
合計	48	-

【とてもなると思う】

- ・ 枠があれば、その枠を使う女子生徒が出てくる。
- ・ 女性ならではの視点や考え方が発信しやすくなる。
また、女子が進学の選択肢として検討しやすくなる。男子ばかりの工学部に居やすくなる。
- ・ 女子枠がある、で女子の目・興味を引く効果がある
- ・ 女子枠の導入により、女子が理工系分野へ進学することで、周囲の考え方にも変化が起こることが予想される。
- ・ 理工学系への進学を希望する女子生徒が増えましたが、女子枠はあまり多くはなく、希望を変えざるをえないこともあるからです。
- ・ 大学側が理工系女子の入学者を増やす取り組みを進めることで、理工系を専攻する女性の更なる活躍が期待できるため。
- ・ 特別枠を活用して、受験を有利にすすめ、希望を叶えたいと考える生徒は多いから。また、理系で一定数は必ず女子がいることが分かるから。
- ・ 本校では、国公立大学の公募推薦が群馬大学がメインとなっている為、女子枠があれば、選択肢が広がる。
- ・ 将来的に、たくさんの女子の管理職への進出の足掛かりと準備は、早い方がいい。
- ・ 女子生徒が理工系分野へ進学するための裾野が広がる良い機会であると考えます。□
- ・ 新潟大学を志望する理系の女子にとって、合格の可能性が強まることで、より志望校確定の根拠になるから。
- ・ 生徒、保護者からの需要があると考えます。
- ・ 優先枠があることによって、進路選択の一つに加わることになるので。
- ・ 過去にも女子枠で工学部に入った生徒がいるが、お得というよりプライドを持って入学したと思うから。
- ・ 女子枠で、また幅広い学生の入学が可能になるから

【ややなると思う】

- ・ 生徒がやりたいことから大学を選ぶ際に、まずは大学入学を実現できる可能性が高まると考えられるため。
- ・ 男子との競争はなくなるから。ただし、女子の志望者が増えればむしろ競争が激化する可能性を秘めているので躊躇する女子も出てくるかもしれない。
- ・ 理工系を希望していても男子比率の高さで敬遠する生徒がいるため。
- ・ 理数系科目を苦手としている女子生徒が多いので、女子枠があれば似たような生徒と入試を競える安心感と、逆に得意としている生徒には有利に働くので。
- ・ 多くの大学で同様の動きを見せていることから、「時代の後押し」ととらえ、便乗しやすい雰囲気生まれるため。
リケジョがマイノリティーである状況下において、「時代の後押し」＝「みんなその方向を向いている」という感覚を持てるかどうかは、日本人の特性を鑑みても有効であると考えます。
- ・ 女子自身が、歓迎されている、または、合格し易くなる、と感じれば、理工系分野進学へのインセンティブになると思います。
- ・ 女子の中にはまだ、工学部進学に遠慮や躊躇している女子学生もいると考えられるから
- ・ 本来、理工系を選択肢に挙げていたが、選択しなかった新潟県の女子生徒が、気持ちの面で選びやすくなると思う。
ただ、数学Ⅲと物理・化学を選択する生徒が増えるかはわからない。増えてほしいが。
- ・ 入学後に必ず同性の仲間がいるという安心感を生徒とその保護者に与えることができる
- ・ 受験希望者がそもそも少ない。枠があることでその希望者が大きく増えるかは別の問題であるため。
- ・ 女子は理数科目が苦手だというバイアスがあるため、理工系を選択しない生徒もいると思われる。
- ・ (女子だから工学部に入りにくいということはないのではと個人的には思いますが)、女子枠があるということは、男性が多い工学分野に女性が入って欲しいというメッセージは生徒に伝わるとは思います。
- ・ 希望者は一定数いると思われます。
- ・ 女子を積極的に入学させる姿勢が明確になるため。
- ・ 女子生徒にとっては有利に働くため。また社会的に見ても女子の力が要求されている時代であると考えられるため。
- ・ 本校は女子がおおよそ95%を占めていますが、理系の生徒はそんなに多くありません。まして数Ⅲの履修者は学年で20名ほどですから、工学部志望者は少ないので、「とてもなる」とまでは言えませんが、女子枠設置は本校としてはありがたいと考えます。
- ・ 本校では、依然として男女間で上級学校への進学に差がある。どの程度のインパクトになるかは不明だが、女子枠を設けることで女子生徒に対する一定のアピールやメッセージ効果が生まれると思われる。
- ・ 今年度、他大学の女子枠入試を利用して受験した生徒がいるから。
- ・ 実際に受験するかどうかは別としても、進路を検討する際に、その大学・学部、研究、取り組み、女子の卒業後の進路先を調べるきっかけにはなっていました。
- ・ 受験の機会の選択肢が増えれば、検討する生徒も増えると思います。

【あまりならないと思う】

- ・ 工学部志望の女子にとっては、定員の枠が増えれば、そこに向かおうとする生徒は増えると思うが、女子全体を考えたときに、理工学部進学志望者が大きく増えるとは考えにくい。
- ・ 性別に関係なく、全ての高校生に平等に機会を与えることが求められていると思います。
男女によって受験の機会に影響があることは、周りの生徒や本人に対して何かしらの影響があるのではないのでしょうか。
その結果として、女子枠や生徒本人へのマイナスなイメージに繋がりが、女子生徒に対する理工系分野進学へのインセンティブになることが難しくなるのではないかと懸念しております。
- ・ 本校の理系女子(37名)のうち、化学系・環境系への希望者は5名。その他の生徒は、教育・医療・生物・薬学等である。
元々理工系への希望者が少ない。女子枠という点での魅力で志望学科変更という動きが促進されるとは考えにくいのではないかと思います。
- ・ 本校では女子生徒で工学系への進学を希望している生徒が多くないのが例年の状況だからです。
- ・ 『女子枠があるから、理工系学部に進む』というわけではないため。
- ・ そもそも工学系志望の女子が少ないから

【まったくならないと思う】

- ・ 興味がない者に別枠で入試しますと伝えても、根本的な解決になっていないと考えたので。

2. 理工系分野への進学を希望する女子生徒がいた場合、女子枠への応募を勧めていただけますでしょうか。

	人数(人)	割合(%)
とても勧める	27	56.3
やや勧める	17	35.4
どちらでもない	4	8.3
合計	48	-

【とても勧める】

- ・ 生徒の興味関心が高いのであれば、ぜひ勧めたい。
- ・ 女子にとって有利な入試であるだろうから。
- ・ 意欲があっても男子に比べて理数系を苦手とする女子も多いため、女子のみでの選抜となれば戦いやすくなる。
- ・ 女子で理工分野に興味のある生徒は居る
- ・ 本校において、貴学を志望している生徒が多いため。
- ・ 就職面でも女子にはアドバンテージがあると聞いているため。
- ・ 国立大学での深い学びや充実した設備を使って研究出来ることが、希望生徒の財産になると考えるからです。
- ・ 限られた中での競争になるため、チャンスが増えるから。
- ・ 女子のみとなるので、勧めたい。
- ・ やはり、単純計算で、競争率が半分になるため。
- ・ 可能な限り確実に合格を勝ち取る方法を勧めたいため。
- ・ 生徒の合格の可能性を増やすため。
- ・ デザイン系と工学系では共通するところがあると思い、勧めることがあります。
- ・ 生徒が志望する学びの分野への進学の期待が強まるから。
- ・ 本人の志望が固まっていれば、受験機会は多い方がよいから。同じ学力の男子よりも入学機会を得る上で有利となると期待できるから。
- ・ 希望する生徒が来年度います。
- ・ 地元で、国公立で(学費の安さ、優秀な生徒が集まっていること)、女子枠があるならば勧めない理由がない。
- ・ 入りやすくなるので。
- ・ チャンスがあるなら、チャレンジして欲しいと思うから。□
- ・ また、まだまだ男性社会の理系でこの先生きていくのであれば、挫けずフロンティアとなっていく自負を育てる上でいいきっかけになると思うから。
- ・ 入学後にそれなりに意識して教育していただけたらと思うから。
- ・ 同じ志をもつ同性の仲間が一定数いるという確証がある。
- ・ 希望した生徒に限りますが、同じ意欲を持つグループの中で学べることで、臆することなく力を発揮することが可能だと感じるからです。

【やや勧める】

- ・ チャンスを増やせるから
- ・ 倍率次第です
- ・ 本人の希望による。
- ・ 女子枠のある大学を学部・学科系統別に分けて示し、生徒自身に考えさせたい。
- ・ 本校女子の工学系進学希望者は例年さほど多いわけではないので、やや勧めるのとさせていただきます。
- ・ どのような特典が付くのかにもよるが、基本はその生徒に有利であろうから合致すれば勧める。
- ・ 志望する生徒がいればチャンスを広げることになるため。
- ・ 選択肢の一つとしてであると紹介する
- ・ 意欲のある生徒にとってのチャンスだと考えます。
- ・ 一般入試では、合格の可能性が少ない場合、勧める可能性がある。
- ・ 受験機会を増やすことができ、さらに女子に有利に働くことは説明しやすい。地元に残りたい生徒は多くいるので需要もあると考える。
- ・ ケースバイケースであり、具体的な事例が出てこないといえませんが、条件次第では勧める可能性は高いと思われます。
- ・ 希望している大学への入学のチャンスの1つになると思うから。

【どちらでもない】

- ・ 本人やその保護者が目標に向かって努力し、女子枠での進学を強く希望するのであれば、応援したいと思います。
- ・ 女子枠があるから勧めるではなく、利用できるのであればという程度の捉え方であります。
- ・ 生徒本人が新潟大学への進学を希望しているのであれば、勧める程度です。

3. 女子生徒へ理工系分野への進学を勧める上で、入試において妨げとなっていることがあれば、ご教示ください。(自由記述)

- ・ それなりの学力を備えていなければいけないので、男子生徒との区別は要らないと思う。
- ・ 数学や物理を苦手としている女子が多いと感じる。
企業に理系の技術者や研究者として就職したときに、長時間労働などが想像される。(今はそうでないかもしれないが)
- ・ 真面目で人柄も良いが、理数系で苦戦してしまい、受験や合格に至らない。
特に分野によっては進学後に理数系をさほど必要としなくても、受験には課されるため入れなくなる。
- ・ 本校においては飛び抜けて理数科目が得意な女子は少ないので、理数受験科目の難易度が高くなると苦しい。
- ・ 一般合格者との入学後の学力格差について。
- ・ 入試での妨げは無いと思う、女子枠のみ出願でなく、通常枠と女子枠を利用できれば選抜の機会も増えるので女子にとっては良いと思う
- ・ 理系へ進学しようと考えている女子生徒に対する、親や周囲の考え方があまり肯定的ではないこともある点。
- ・ 数学Ⅲ、物理の学習において本来男女差はないはずであるが、現状は差があるように思えてならない。最後まで粘る女子生徒が少ない。
男子はこの科目を避けることが出来ないという覚悟があるから諦めずに取り組んでいる。
この点を軽減したとしても大学入学後に支障を来すと思われるので安易に科目削減は出来ない。なので、励ましながらの指導に苦慮している。
- ・ 女子は理系科目が苦手であろうという価値観が少なからず存在すること。大学卒業後の進路が女性が働けるかどうか(機械や建築など)心配される
ところ。
- ・ 本校の生徒だけかもしれませんが、数学Ⅲの内容が理解定着が低い生徒が多い。
- ・ 元々、数学Ⅲと物理・化学を選択履修する女子が少ない。入試の問題ではない気がする。
- ・ 女性の学生や研究者が在籍するにあたって様々な環境が整っていないこと、卒業後のキャリアプランを描きにくいこと
10年前よりは格段に良くなったと思うが、それを30年前のイメージで固まっている「新潟県」の保護者への説得材料にはしづらい。
- ・ 生徒自身の興味関心
- ・ 理系であれば、身近なため看護医療系、栄養系、農業系に興味を持つ生徒が比較的多く、物理の科目選択の段階で人数が少ないのが現状です。
また、物理を選択していても、放射線技師や、薬学系、デザイン系への進学者が多いようです。
科目選択で生物を選択してしまっていることから、3年の受験期になって理工系への入試はむずかしいかと思います。
- ・ 数学Ⅲ(微積分)の履修
- ・ 理科の選択科目は全て選べるので、現状では特に妨げになることはありません。
- ・ 小中学生の理数離れに端を発し、女子の中で数学Ⅲや物理選択者が少ないため、そもそも理工系を勧められない。
新課程では教科情報を共通テストで課す大学が多いが、本校は非常勤講師が授業を担っていることも一因となるかもしれない。
- ・ 数学の学力をつけることができていないのが最も大きな妨げです。
- ・ 保護者と生徒自身の意識
- ・ 受験した生徒から、女子枠といいつつ男性の面接官のみであったことから、本当に理系女子の意義を認めて求めているのか、
国が勧めているから仕方なくなのではないかと不安になった、と聞きました。
- ・ 物理の科目履修生が少ないように感じます。
- ・ 理数科目、特に物理や化学の大学個別入試に耐えられる力をつけにくいと感じています。

4. 特別選抜における女子枠の導入について、ご意見・ご要望などがありましたらお聞かせください。(自由記述)

- ・ 導入されたら活用すると思うが、女子だけ募集の入試は公平な入試ではないと感じるので、国の方針かもしれないが個人的には反対である。
- ・ ぜひ進めていただきたいと思います。
- ・ 大学院に進学するにせよ就職するにせよ、女性として安心できるキャリア形成がのぞめる体制をご提示いただきたい。
- ・ 女子枠を積極的に使いたい女子と「女子」と区別されたくない女子も居ると思う。
選抜機会が増えることは大変望ましいし実施となれば積極的にアナウンスしていきたいが、女子は女子枠だけという雰囲気にならぬよう指導・アナウンスに気を付ける必要がある。また、女子枠の定員が出来ることで現在の総合型・推薦型等特別選抜の定員数が減少されると、女子枠を利用できない男子が女子枠実施大学を敬遠しないように指導・アナウンスに気を付けたいといけないし、そうならぬような定員設定を希望する。
- ・ 女子枠を導入した場合は、募集定員をしっかりと確保してほしい。
- ・ 才能や興味のある女子生徒が、希望の道に進めるよう、積極的に働きかけていただきたく、お願い申し上げます。
- ・ 女子枠の導入により人数枠が減少すれば逆差別となるのではと懸念する点もあります。
積極的に女子を受け入れるというメッセージには賛同いたしますが、質の低下が起きないように注意が必要かと思います。
- ・ 理工系を専攻する女子(女性)が、将来研究者や技術者として活躍できる環境づくりを、貴学を含め大学の立場からお願いしたい。
- ・ 数名ではなく、ある程度人数があるとよい。
- ・ もし女子枠を設けた場合、一般枠との併願は可能になるのでしょうか(他校の医学部の前期試験で一般枠と地域枠が併願できるようなイメージです)。
- ・ ぜひ導入されるのであれば、選択肢が広がるので、よろしくお願い致します。
- ・ 一部に逆差別という声があるようですが、理工系の学部・学科の女子割合は世界最低水準であるので、男女比を現時点の状況よりも改善していくために、男子が不利になりすぎない、あまり大きすぎない「女子枠」ならば良いと思います。また、男子が多かった理工系分野に「女性の視点」を増やすことで、ブレイクスルーを起こしやすくなるのが期待できる、という点からも「女子枠」は必要だと思います。
- ・ 実際に女子枠導入した後の変化について大変興味があります。
- ・ 理工系を志す女子は世の中の雰囲気の変化と共に自然増傾向にあるよう感じています。女子枠の存在が、後押しとなっていると考えます。
- ・ 女子学生枠のみならず大学の研究者も女性研究者の採用枠を増やし、女子学生が安心して進学できる環境を整えてほしい。
20年後に女子枠そのものが過去のものになると嬉しいです。
- ・ 性別による入試は、男子生徒から見ると、男女平等の考えに逆行していると考えております。
女子の比率をあげたいなら、女子専用の入試枠を作ると、単純に考えるのに反対です。
問題解決にはならないと思います。女子なら合格点基準点を下げると言った不平等につながりかねません。
- ・ 少数ではあるものの、希望者はいる。ぜひ設定いただければと思います。
- ・ 入学時の女子枠もありたいが、入学後(特に就職について)で女子に対する支援をいただけるとよいかと思います。
高校生へのよいピーアールにもなるかと思います。
- ・ 男女で枠を設けるのは良い方向ではないと思うが、女子生徒の理工系進学者を増やすためには一時的には必要な制度とを感じる。
- ・ 学校からの提出書類は簡素にしてほしいです。
- ・ 数は少ないですが、工学系に進みたい女子はいるので、是非導入をお願いしたい。
- ・ 大学卒業後の進路が見えないことから、建築系などを除き、女子の志望者が少ない。企業的女子採用状況などの情報発信をしてほしい。
- ・ 理工系への興味関心を持たせるために、年数回継続参加する、1、2年生対象の講座があるといいと思います。
- ・ 理工系分野は男子学生が多いイメージが定着しているが、女子枠導入を機にこのイメージが変わっていくかもしれない。その意味でもおおむね賛成。
- ・ そういう選択肢が増えるのは大変ありがたいことです。
- ・ 情報がありましたら、教えていただけますと幸いです。
- ・ 高校の男性の先生たちの間でも、「もともと女子の能力が理系工学の思考に向かないから、理系女子が少ないんだ。女子だけ特別扱いするのはおかしい。」という声を聞きます。確かに性別で区別するのは多少乱暴かとも思いますが、これからの工学に必要な「能力」とは何か、必要なものの見方とは、といったところ理解が進めばいいなと思っています。
- ・ 「特別選抜」とは総合型選抜なのか、学校推薦型選抜なのか不明ですが、いずれも女子枠があるとありがたいと思います。
また、女子特有、といわれる発想や研究活動の特徴をしっかりと生徒に伝えられる解説を事前にお示しいただければ、1年生から話をして目標とすることが可能になると思われます。
- ・ 進路からも積極的に宣伝をしますが、反応は薄いです。女子生徒に工学部の魅力があまり伝わっていないのが現状ではあります。

創生学部における学生確保に関するアンケート

調査目的：創生学部拡充構想に対する高校生のニーズ把握のため

調査方法：Web によるオンラインアンケート

調査対象：新潟県および隣接する近県に所在する高等学校の 1 年生・2 年生、
創生学部への進学実績のある新潟県外に所在する高等学校の 1 年生・2 年生

調査期間：2023 年 11 月 14 日～12 月 26 日

回答者数：38 校 3,743 人

令和5年11月14日

各高等学校長 様
進路指導ご担当者 様

新潟大学創生学部長
中 村 隆 志

新潟大学創生学部DX共創コース（仮称・新設構想中）に関するアンケートへのご協力について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

新潟大学では、2025（令和7）年4月より創生学部内に「DX共創コース（仮称）」を新設することを構想しております。

創生学部は、「文理融合型」・「探究型」の学部として、文理や分野の枠を超えて自らの興味関心に沿って取り組む課題やテーマを各自が設定し、『学ぶ』のではなく自主的に『学び』を創っていく」ことを特色としています。

今回新設予定の「DX共創コース」では、各分野でこれまで蓄積してきた知識や経験をデジタル技術を融合させることで、データを共通言語あるいは主な推進力として学際的な未開拓領域に挑み、社会の要請に適合させながら新たな機能や価値を背景の異なる他者とともに創出すること（共創）、または既存の機能の高度化につなげることにより、高度な専門知と幅広い視野で時代を捉えながら、背景の異なる他者と協働して課題解決をデザインする人物（技術者・研究者・起業家）の育成を目的としております。

つきましては、高校生の皆さんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、上記コースでの教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきたく、アンケートへのご協力についてよろしくお願いいたします。

なお、このアンケートで得られました情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ございません。

また、同封のアンケートや資料に記載されている「創生学部DX共創コース（仮称）」に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性がありますので、ご了承願います。

謹 白

新潟大学 創生学部 of 拡充（定員増と教育内容 of リニューアル, 構想中）に関するアンケート

新潟大学では2025年（令和7年）4月より、「創生学部」 of 拡充（定員増と教育内容 of リニューアル）を構想しています。このアンケートは、高校生 of みなさん of 進路選択に関する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、新潟大学 of 教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

こちらの[説明資料](#)（またはその[縮刷版](#)）をご覧ください、続いて本アンケートへのご協力をお願いします。

※このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記 of 目的 of ための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

※このアンケートや上 of リンク先に記載されている「創生学部 of 拡充」に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる可能性があります。

* 必須 of 質問です

1. 最初にあなた自身についてお聞きします。

1。 1.1 性別（1つだけ）

1つだけマークしてください。

☐ 男性

☐ 女性

2。 1.2 学年（1つだけ） *

1つだけマークしてください。

☐ 高校1年生

☐ 高校2年生

3. 1.3 在籍高校名（入力してください） *

4. 1.4 高校所在地（都道府県名を入力してください） *

5. 1.5 公私の別（1つだけ） *

1つだけマークしてください。

☐ 公立

☐ 私立

☐ その他

6. 1.6 在籍学科（1つだけ） *

1つだけマークしてください。

☐ 普通科

☐ 理数科

☐ その他

7. 1.7 所属クラス（1つだけ） *

1つだけマークしてください。

☐ 文系クラス（コース）

☐ 理系クラス（コース）

☐ コース選択はない

☐ その他:

2. 高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

8. 2.1 あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。

以下の項目から、あてはまるものすべてをお選びください。（いくつでも）

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 国立大学に進学
- ☐ 公立大学に進学
- ☐ 私立大学に進学
- ☐ 短期大学に進学
- ☐ 専門学校・専修学校に進学
- ☐ 就職
- ☐ その他

9. 2.2 あなたはどのような学問に興味がありますか。

以下の項目から、興味のある学問系統すべてをお選びください。（いくつでも）

当てはまるものをすべて選択してください。

- ☐ 文学（心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学などを含む）
- ☐ 語学（言語学など含む）
- ☐ 法学（政治学など含む）
- ☐ 経済・経営・商学
- ☐ 社会学
- ☐ 教員養成・教育学
- ☐ 芸術学（芸術・デザイン、音楽など含む）
- ☐ 看護・保健学
- ☐ 医・歯・薬学
- ☐ 理学
- ☐ 工学
- ☐ 農・水産学
- ☐ その他
- ☐ まだ決めていない

質問 10 にスキップします

高校生対象調査票

新潟大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2025年（令和7年）4月からの「創生学部」の拡充（定員増と教育内容のリニューアル）を構想しています。以下の設問に回答ください。

3. 新たに拡充する新潟大学「創生学部」には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、当てはまるものを1つだけ）

10. 特色1. 文理融合型の高度デジタルスキル活用人材育成

★

創生学部は、「文系理系の区別がない学部」です。理系の学生のみならず、高校時代に数IIIを履修していない、いわゆるソフト理系の学生や文系の学生も分野の枠を超えた協働の学びで、高度なデータサイエンスやDX・AIなどの先端技術について、基礎から無理なく身につけることができます。

1つだけマークしてください。

- ☐ とても魅力を感じる
- ☐ ある程度魅力を感じる
- ☐ あまり魅力を感じない
- ☐ まったく魅力を感じない

11. **特色2. 大学院進学が標準となりつつある理系教育に対応した大学院接続支援** *

理系教育は学部4年を終えたのち、大学院に進学することが標準になりつつあります。新潟大学創生学部は、新潟大学大学院フューチャーデザインプログラム（仮称）と連携した教育により、当プログラムへの進学を支援します。大学院に進学し、より高い実践力や専門性を修得して社会で活躍することも可能です。

1つだけマークしてください。

- ☐ とても魅力を感じる
- ☐ ある程度魅力を感じる
- ☐ あまり魅力を感じない
- ☐ まったく魅力を感じない

12. **特色3. 社会で活躍できる人材に** *

新潟大学創生学部の卒業生は、高い企画力と調整能力を発揮できる人材（企業人・公務員）、広い視野と深い洞察力を持って粘り強く研究できる人材（大学院進学・研究者）として活躍することが想定されます。

1つだけマークしてください。

- ☐ とても魅力を感じる
- ☐ ある程度魅力を感じる
- ☐ あまり魅力を感じない
- ☐ まったく魅力を感じない

13. **4. あなたは、新潟大学「創生学部」を受験してみたいと思いますか。 ***
あなたの気持ちに一番近いものを1つお選びください。（1つだけ）

1つだけマークしてください。

- ☐ 受験したいと思う
- ☐ 受験したいと思わない

セクション5（***質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***）にスキップ

14. 4.1 前の質問で受験したいと思うと回答した方に質問です。
あなたの気持ちに一番近いものを1つお選びください。（1つだけ）

1つだけマークしてください。

- ☐ DX共創コースを受験したい
- ☐ 創生学修コースを受験したい
- ☐ どちらか決められないが受験したい

15. 4.2 あなたは新潟大学「創生学部」を受験して合格したら、入学したいと思 ★
いますか。
あなたの気持ちに一番近いものを1つお選びください。（1つだけ）

1つだけマークしてください。

- ☐ 入学したいと思う
- ☐ 入学したいと思わない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

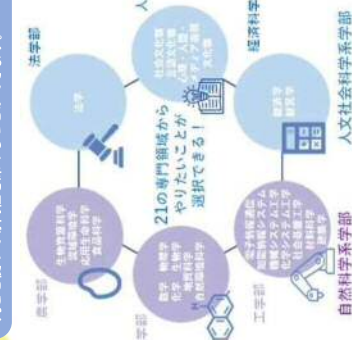
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

学生確保の見通し（資料）－ 34

胎外兒

創生学部は、文型・理系どちらからも受験できます。入学後は様々な学問分野への理解を深めた後、目下の興味関心によって課題やテーマを設定し、日本海内最大国立総合大学の教育研究資源を丸ごと使って専門性を深めることができます。



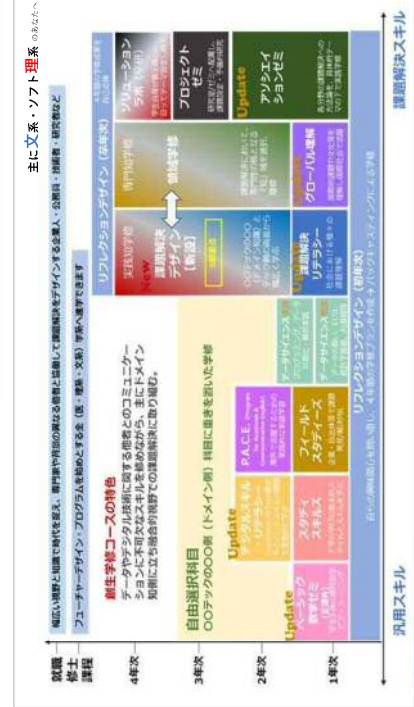
創生学部創生学修課程 拡充構想について

DX共創コース (仮称)

＜学内接続コース＞
新潟大学大学院 自然科学研究科
フューチャードesignプログラム (仮称)
入学定員 30人

【自然学人物論】
高麗の李南知と幅広い視野で時代を捉えた者、背景の異なる他者と協調して課題解決をデザインする人物
例として、林義順、呂文輝、李

DX共創とは、、、
専門の各分野でこれまで蓄積してきた
知識や経験、デジタル技術と融合させる
ことで、データを活用するあるいは
新たな推進力として学際的な未開拓領域
に挑み、社会の要請に適合させる他者
新たな機能や価値を背景の異なる他者
と共に創り出すこと（共創）。または、
既存の機能の高度化につなげることを



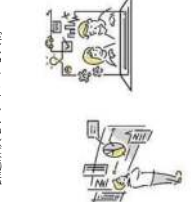
創生学修コース（仮称）

入学定員 **50人**

一般選抜	前期日程	30人
総合型選抜・理系科目選択型	10人	
文型科目選択型	10人	

(※総合型選抜人数)

【目指す人物像】
幅広い視野で時代を捉えながら、
背景の異なる他者と協働して
課題解決をデザインする人物



～自分を創る、学びの場～

- ・ 幅広く自由度の高い学び
- ・ 文理融合・分野横断
- ・ 入学後に専門軸選択
- ・ 他者との協働
- ・ 少人数教育

2年次

- ・グローバルに活躍する
- ための読字力
 - ・実践的なデータ活用
 - ・自分の専門職の決定

3年次

- ・専門領域を
- 課題を
- 解決を
- 多面的

主に**理系**・**ソフト理系**のあなたへ

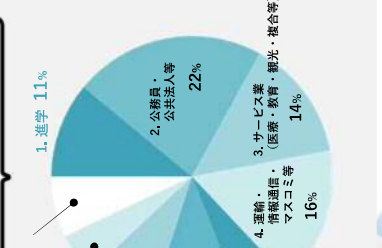


1000

卒業生の声



過去3年間の進路状況



ゼミ・ラボ紹介：創生学部でできること
(例えばこんなこと)



大学院進学者の声



1. 進学

- ・学内進
- ・学外進学
- 2.2.公務員・公
- ・国家公務員
- ・地方公務員
- 3.サービス業
- ・サービス
- 4.運輸・情報
- ・運輸業
- ・情報通信業
- ・マスコミ
- 5.金融・保健
- ・金融業
- ・保険業
- 5.製造・建設
- ・製造業
- ・建設業
- 7.卸売・小売
- ・卸売業
- ・小売業
- 8.不動産業等
- ・不動産業

小さなひらめきこそアイディアの種！

DX共創コースの多面的な学びで視野を広げて得たひらめきを、
大学院フェューチャードesign・プログラムでさらに磨こう

新設計
新書

情報高度化専門知識を有し、データサイエンス、デジタルの母体となっている分野やマネジメント等にも精通した上で、さまざまな観点の考え方を設定された課題に対し様々な観点で課題解決を模索し、将来志向で課題解決を推進できる人材を育成するプログラムです。



創生学部における学生確保に関するアンケート結果

1. 回答者の属性

- ・ 回答者の性別は「男性」が 39.8% (1, 476 人)、女性が 60.2% (2, 232 人)。
- ・ 回答者の学年は「2 年生」42.1% (1, 576 人)、「1 年生」57.9% (2, 167 人)。
- ・ 回答者の在籍高校種別は「公立」が 98.6%、「私立」が 0.2%、「その他」が 1.2%。
- ・ 回答者の在籍高校所在地は、新潟大学の学生募集の中心である「新潟県」が 46.2%で最も多い。
- ・ 回答者の在籍学科は、「普通科」が 88.6%、「理数科」が 4.4%、「その他」が 7.0%。
- ・ 回答者の所属クラスは、「理系クラス (コース)」が 25.1% (941 人)、「文系クラス (コース)」が 22.2% (830 人)、その他となっている。

2. 高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- ・ 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ「国立大学に進学」が 85.7%で最も高い。次いで、「公立大学に進学」が 55.9%。国立大学への進学希望者が多いことから、創生学部が今後ターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。
- ・ 回答者の興味のある学問系統は「文学」(29.8%) が最も高く、次いで「経済・経営・商学」(22.2%)、「理学」(20.6%)、「工学」(20.4%) の順に高い。

3. 拡充を構想中の「創生学部」の特色に対する魅力度

- ・ 拡充を構想中の「創生学部」の特色に対する魅力度(※)は、全ての特色で7割を超える。
- ・ 中でも、特色3「卒業生は、高い企画力と調整能力を発揮できる人材(企業人・公務員)、広い視野と深い洞察力を持って粘り強く研究を発揮できる人材(大学院進学・研究者)として活躍することが想定されます。」に対する魅力度は 86.5%で、特色3項目中最も高い。次いで特色1「理系の学生のみならず、高校時代に数IIIを履修していない、いわゆるソフト理系の学生や文系の学生も分野の枠を超えた協働の学びで、高度なデータサイエンスやDX・AIなどの先端技術について、基礎から無理なく身につけることができます。」(77.8%)となっているが、特色2「新潟大学大学院フューチャーデザインプログラム(仮称)と連携した教育により、当プログラムへの進学を支援します。」も 71.5%と高い数値となっている。

※ 魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

4. 「創生学部」への受験意向・入学意向

- ・ 「創生学部」を「受験したいと思う」と答えた人は全体で 12.9% (481 人)、2 年生に限れば 4.4% (165 人) である。
- ・ 「創生学部」を「受験したいと思う」と答えた 481 人のうち 12.3% (59 人) が「DX 共創コース」の受験を希望している。
- ・ 「創生学部」を「受験したいと思う」と答えた 2 年生 165 人のうち、13.9% (23 人) が「DX 共創コース」の受験を希望している。
- ・ 「創生学部」を「受験したいと思う」と答えた 481 人のうち「入学したいと思う」と答えた人は 89.0% (428 人) である。
- ・ 「創生学部」を「受験したいと思う」と答えた 2 年生 165 人のうち「入学したいと思う」と答えた人は 87.3% (144 人) であり、予定されている新たな入学定員 (70 人) の 2 倍超となっている。

5. 受験意向別入学意向 属性別傾向

新潟大学を受験する可能性がより高いと考えられる層の入学意向状況を確認するため、「創生学部」を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた人（以降下線部を「入学意向者」と表す※）に限った場合の数値について確認する。

※入学意向者数は 428 人。

◇性別

- ・ 入学意向者 428 人の内訳は、「男性」42.1% (180 人) より「女性」56.8% (243 人) の方が 14.7 ポイント高い。

◇高校所在地別

- ・ 高校所在地別に見た入学意向者数は、新潟が 57.7% (247 人) で最も多く、次いで栃木 14.7% (63 人)、福島 10.7% (46 人)、北海道 8.9% (38 人)、群馬 4.0% (17 人)、静岡 2.8% (12 人)、長野 0.9% (4 人)、山形 0.2% (1 人) となっている※。

※ 従来における創生学部への進学実績からすれば、長野、山形の入学意向者が極端に低く、これは当該地域に対するアンケート調査への協力依頼機関数の少なさが影響しているものと考えられる。

◇在籍コース別

- ・ 「文系クラス（コース）」在籍者からの創生学部への入学意向者 104 人、「理系クラス（コース）」在籍者からの創生学部への入学意向者は 82 人。2 年生に限れば、「文系クラス（コース）」在籍者からの創生学部への入学意向者 76 人、「理系クラス（コース）」在籍者からの創生学部への入学意向者は 58 人。

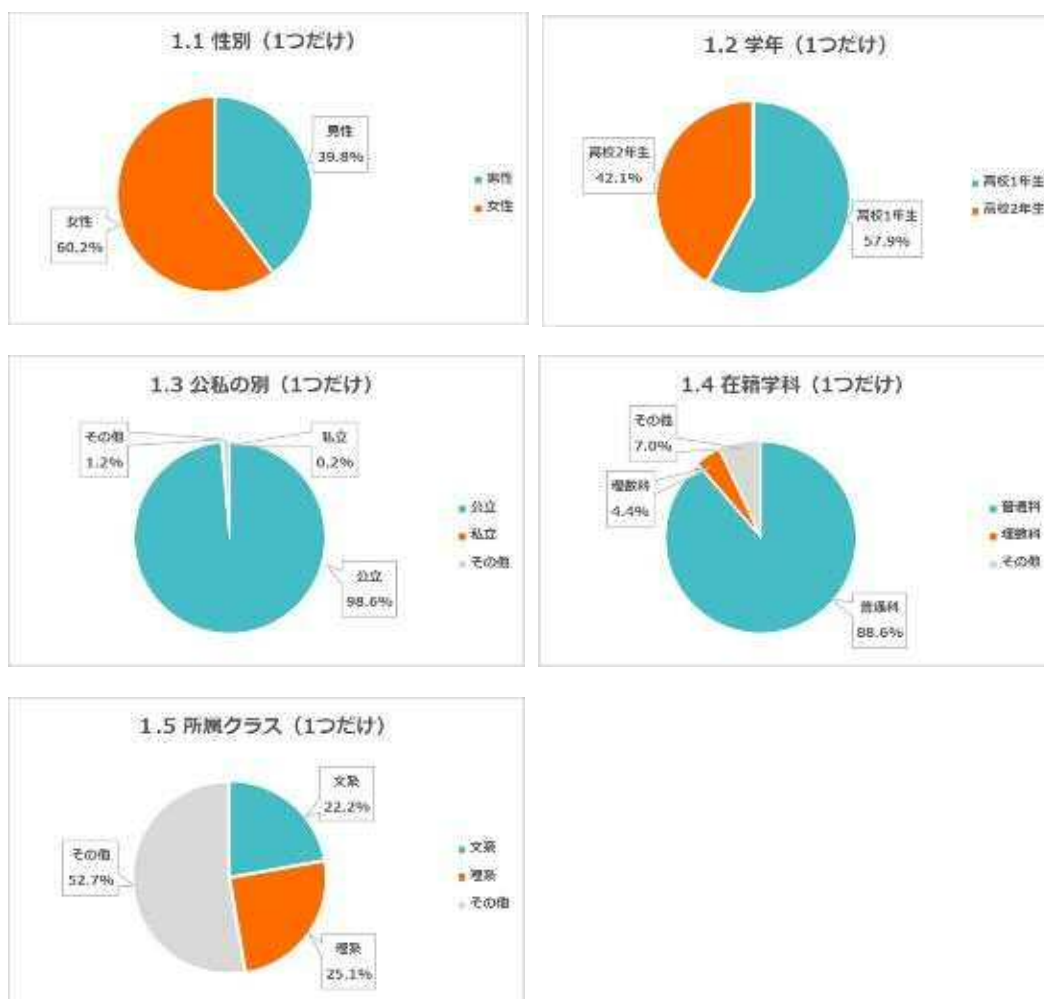
◇興味学問系統別

- ・ 入学意向者について、自然科学系（看護/保健学・医/歯/薬学・理学・工学・農/水産学）に興味がある人は延べ 226 人であり、うち「DX 共創コースを受験したい」と回答したのは延べ 33 人（14.6%）、「創生学修コースを受験したい」と回答したのは 51 人（22.6%）、「決められないが受験したい」と回答したのは 142 人（62.8%）であった。
- ・ 他方、人文社会科学系（文学・語学・法学・経済/経営/商学・社会学・教育学・芸術学）に興味がある人は延べ 303 人であり、うち「DX 共創コースを受験したい」と回答したのは延べ 33 人（10.9%）、「創生学修コースを受験したい」と回答したのは 92 人（30.4%）、「決められないが受験したい」と回答したのは 178 人（58.8%）であった。
- ・ 「DX 共創コース」を受験したいとの回答は、人文・社会科学系に興味がある入学意向者よりも自然科学系に興味がある入学意向者の方が 3.7 ポイント高いものの、人文・社会科学系に興味がある入学意向者に限っても DX 共創コースの受験希望は 10%を超えている。

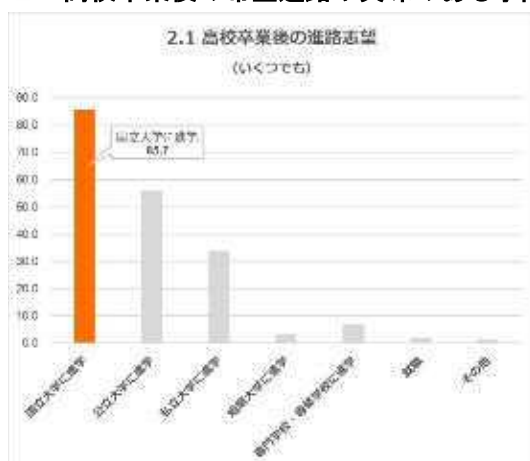
◇新潟県に所在する高校に在籍の入学意向状況

- ・ 新潟大学にもっとも入学する可能性が高いと考えられる、新潟県に所在する高校の生徒のなかで、入学意向者は 14.4%（247/1,729 人）となっている。
- ・ 新潟県内外で比較した入学意向者の受験希望コースについて、新潟県内では「DX 共創コースを受験したい」が 26 人（10.5%）、「創生学修コースを受験したい」が 59 人（23.9%）、「決められないが受験したい」が 162 人（65.6%）であった。それに対して新潟県外では、「DX 共創コースを受験したい」が 25 人（13.8%）、「創生学修コースを受験したい」が 58 人（32.0%）、「決められないが受験したい」が 98 人（54.1%）であった。
- ・ DX 共創コースの受験希望割合に着目すると、新潟県内よりも新潟県外の方が 3.3 ポイント高く、DX 共創コースに対する入学意向者のニーズは新潟県内よりも新潟県外の方がやや高いことがわかるが、入学意向者数は新潟県内外いずれも単体で予定しているコース定員 20 名を超えている。

1. 回答者の属性

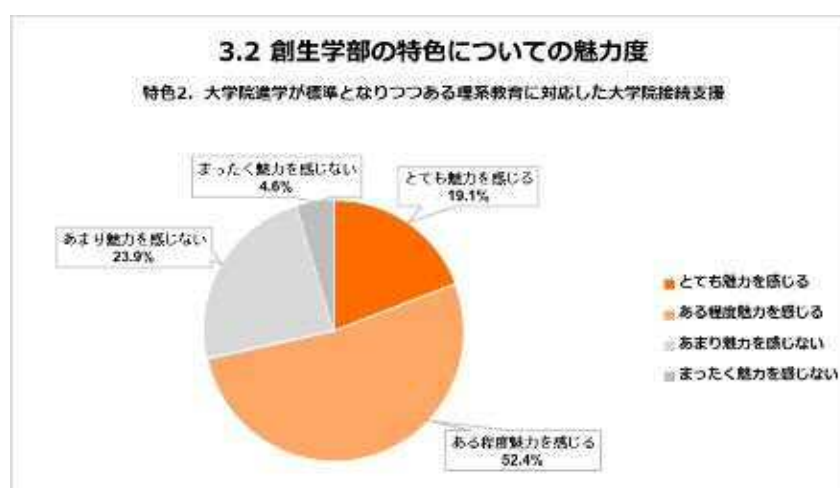
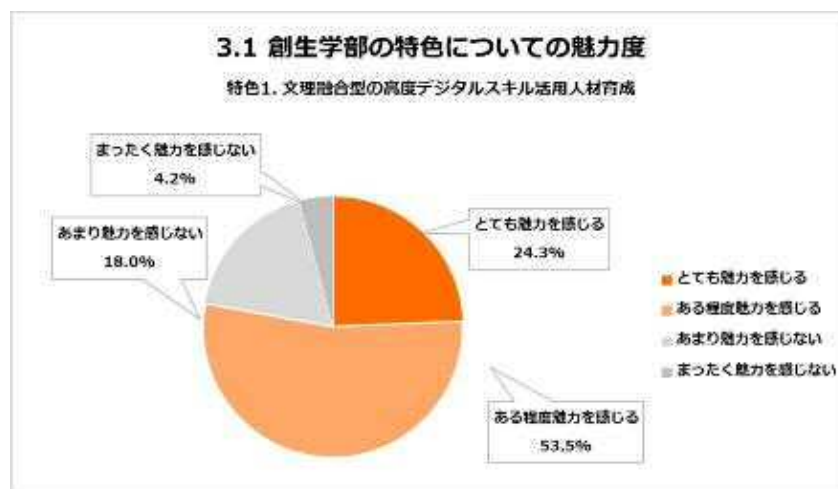


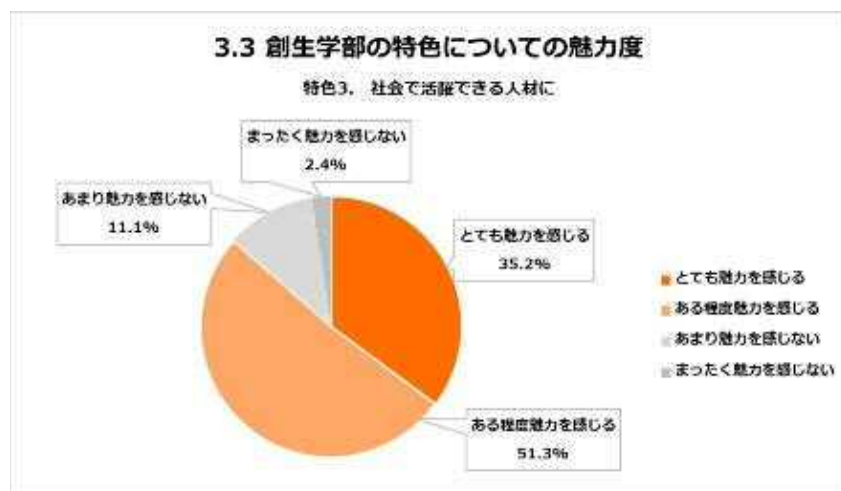
2. 高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統



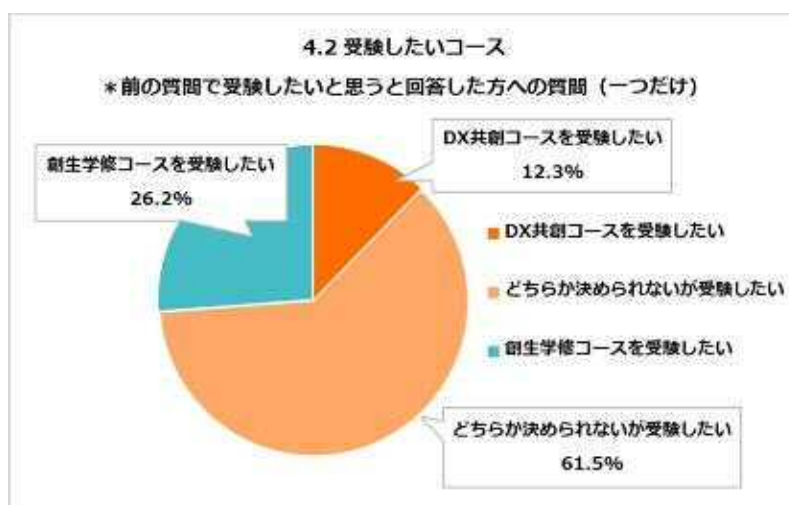
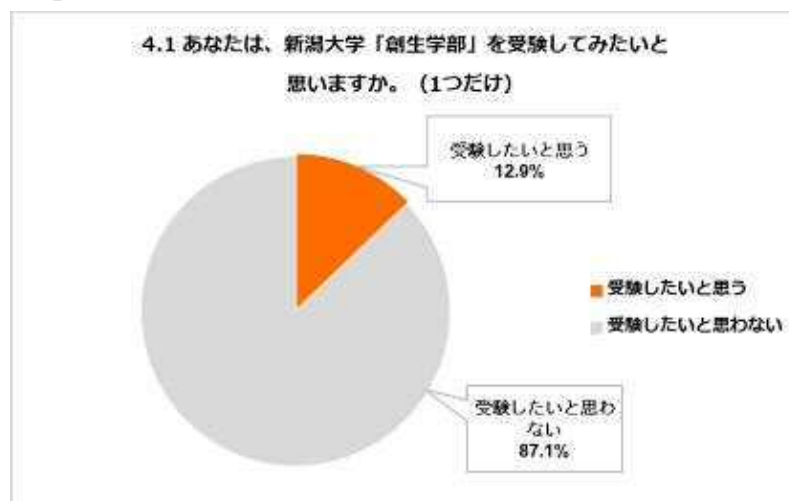


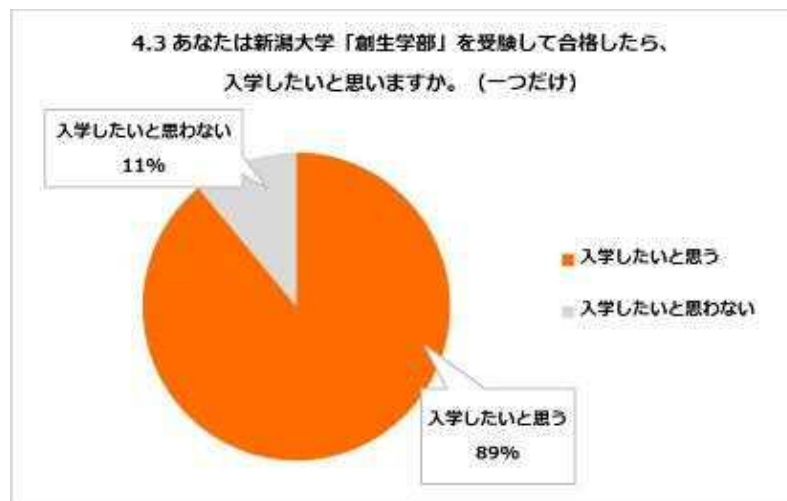
3. 拡充を構想中の「創生学部」の特色に対する魅力度





4. 「創生学部」への受験意向・入学意向





5. 受験意向別入学意向 属性別傾向

5.1 高校所在地別入学意向者数（人）

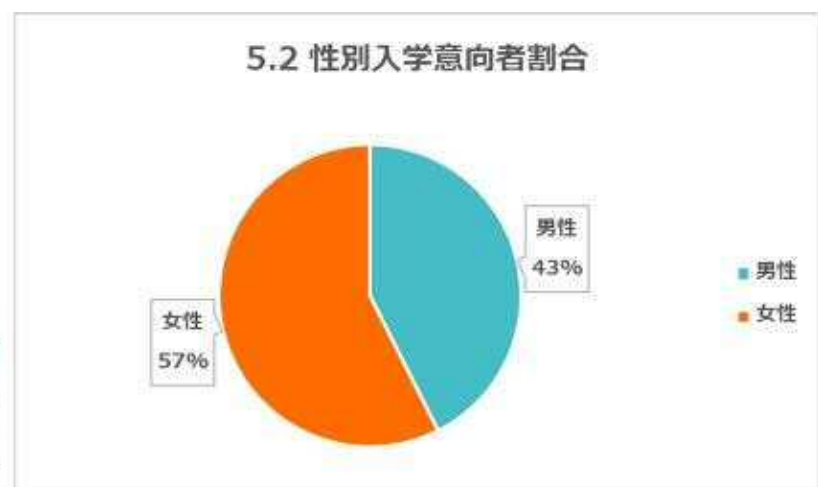
高校所在地	入学意向者数
新潟	247
栃木	63
福島	46
北海道	38
群馬	17
静岡	12
長野	4
山形	1
計	428



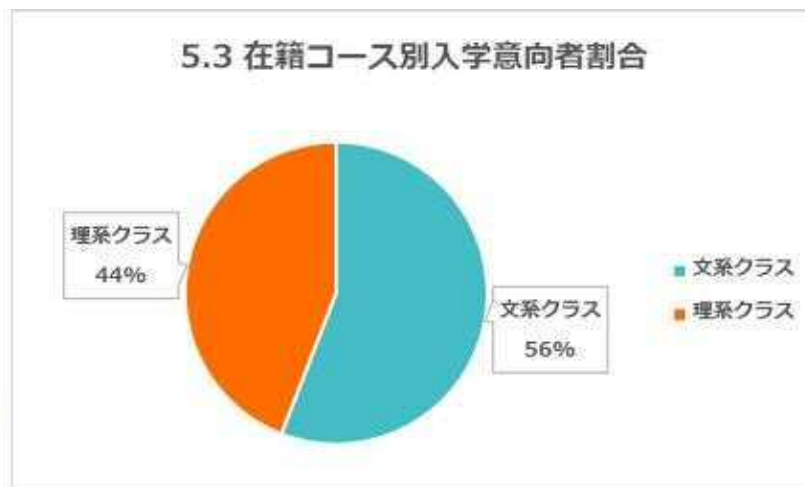
5.2 性別入学意向者数（人）

性別入学意向者	入学意向者数
男性	180
女性	243
計	423

※：無回答は除いている。

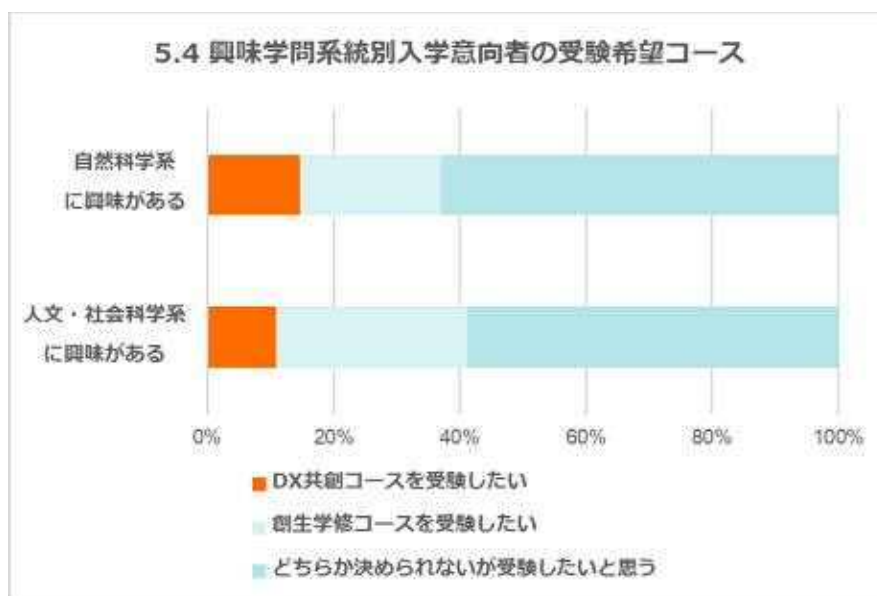


5.3 在籍コース別入学意向者数（人）	
在籍コース	入学意向者
文系クラス	104
理系クラス	82

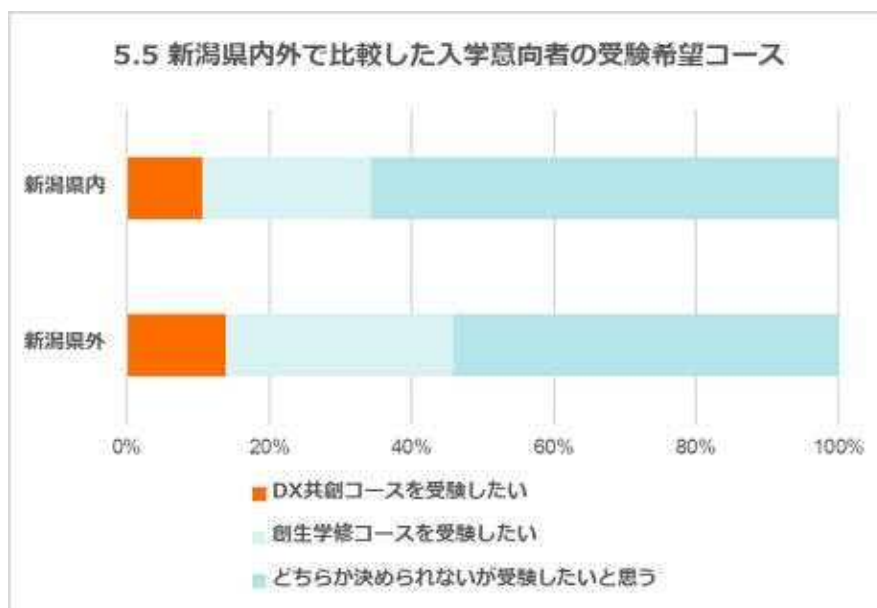


5.4 興味学問系統別入学意向者の受験希望コース				
	DX共創コースを受験したい	創生学修コースを受験したい	どちらか決められないが受験したいと思う	合計
自然科学系に興味がある	33 14.6%	51 22.6%	142 62.8%	226 100.0%
人文・社会科学系に興味がある	33 10.9%	92 30.4%	178 58.7%	303 100.0%
合計	66 12.5%	143 27.0%	320 60.5%	529 100.0%

※ すべて延べ人数（重複回答あり）。



5.5 新潟県内外で比較した入学意向者の受験希望コース				
	DX共創コースを受験したい	創生学修コースを受験したい	どちらか決められないが受験したいと思う	合計
新潟県内	26	59	162	247
	10.5%	23.9%	65.6%	100.0%
新潟県外	25	58	98	181
	13.8%	32.0%	54.1%	100.0%
合計	51	117	260	428
	11.9%	27.3%	60.7%	100.0%



デジタル人材需要に関するアンケート

調査目的：高度情報専門人材を育成することを目的とした新たな大学院コースの
設置構想に対する意見収集、ニーズ把握のため

調査方法：Web によるオンラインアンケート

調査対象：大学院自然科学研究科修了生の採用実績がある企業（52 社）

調査期間：2023 年 12 月 4 日～12 月 18 日

回答数 ：26 社

令和5年12月4日

新潟大学大学院自然科学研究科修士

採用企業等代表者 様

(人事担当者 様)

新潟大学大学院自然科学研究科長

松尾 正之

高度情報専門人材育成に関する新たな取組みに関するアンケートのお願い

師走の候、貴社ますますご繁栄のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より本研究科の教育研究活動にご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、本研究科におきましては、近年の社会情勢を踏まえた高度情報専門人材を育成することを目的とした、新たなコースの設置を構想しております。

つきましては、別紙の資料をご覧ください、皆様の忌憚のないご意見を頂戴したく、資料に記載のアンケートURL、またはQRコードから、令和5年12月18日(月)迄にご回答いただけますよう、ご協力をお願いいたします。

なお、本アンケートにより収集したデータは、実施目的に即したことのみに使用いたします。

高度情報専門人材育成に関する新たな取組みに関するアンケート

新潟大学 大学院 自然科学研究科

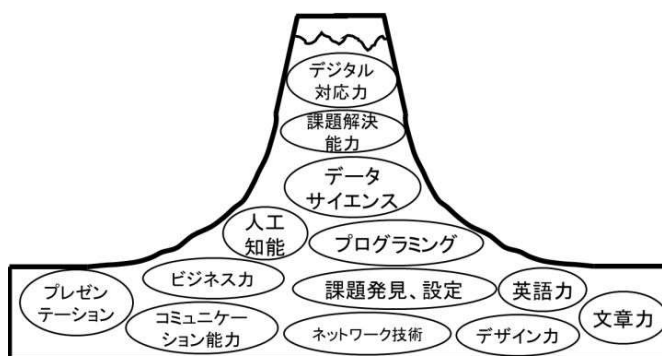
謹啓

時下ますますご発展のこととお慶び申し上げます。

近年、社会の様々な場面でデジタル技術やデータの利活用が広がり、生産性や利便性を飛躍的に高めるデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進が産業、教育、行政等のあらゆる分野において求められている一方、我が国では先端 IT 人材が不足しており、デジタル競争力は先進諸国と比べて低いという調査結果もあります。

このような背景の下、新潟大学ではデジタル技術の成長分野においてより高度な人材を育成することを目的に、大学院に新たなコースを設ける構想を練って企てております。新設するコースでは、文系や理系という考え方にとらわれず、情報、データサイエンス、デジタル等に精通した上で、設定された課題に対し様々な観点の考え方を検討して、解決方法を見出すことができる人材を育成することを構想しています。

上記に掲げる人材育成のためには、あくまで一例ですが、右図で示すような知識やスキルを博士前期課程（修士課程）の2年間で修得できるようなカリキュラムを検討中です。このコースで学ぶ学生は、目指すべき社会の姿や研究の到達点を描き、そこに到達するために必要な技術、制度、実現方法を考え、検証実験、データ分析、シミュレーションにより実証し、その結果を適切にまとめ、外部で発表する力を修得することを想定しています。



さて、前置きが長くなりましたが、このようなコースを新設にあたり、産業界の現状を把握し、現段階の構想に対する企業側からの御意見を伺いたく、アンケートへの回答をお願い申し上げます。

謹白

アンケートは以下のURLから御回答下さい。右のQRコードからでもアクセスできます。

<https://forms.gle/Y8hr6ZJ4ais5UZiA7>



高度情報専門人材育成に係る大学院新規コースについて（新潟大学）（企業向け）

新潟大学では、文系や理系という考え方にとらわれず、情報、データサイエンス、デジタル等に精通した上で、設定された課題に対し様々な観点の考え方を検討して、解決方法を見出すことができる人材を育成することを目指した、新たな大学院のコースの新設を検討しています。これに関しまして以下の調査に御協力下さい。

[Google にログイン](#)すると作業内容を保存できます。[詳細](#)

* 必須の質問です

御所属をお教え下さい。 *

回答を入力

データサイエンスやAIなどに精通しデジタルデータ分析ができる人物を、ここで * はデジタル人材と呼ぶことにします。御社ではデジタル人材を確保できていますか。

- ☐ 確保できている
- ☐ どちらかというと確保できている
- ☐ どちらかというと確保できていない
- ☐ 確保できていない
- ☐ 不明/わからない



今後デジタル人材を増やしていきたいですか。 *

- ☐ 確実に増やしていきたい
- ☐ できれば増やしていきたい
- ☐ 増やす必要はない
- ☐ 未定/わからない

上記の質問の回答が「確実に増やしていきたい」または「できれば増やしていきたい」と回答された場合、その方法を回答下さい（複数回答可）。

- ☐ 新卒採用者
- ☐ 中途採用者
- ☐ 社内での異動、育成
- ☐ 未定/わからない
- ☐ その他:

デジタル人材の必要性に関して、御意見等があればお書きください。

回答を入力

新潟大学で構想している大学院の新たなコースへの期待をお聞かせください（別 * 紙をご覧ください）。

- ☐ 期待できる
- ☐ どちらかという期待できる
- ☐ どちらかという期待できない
- ☐ 期待できない
- ☐ わからない



新潟大学で構想している大学院の新たなコースの魅力的な点をお聞かせください *
(複数回答可)。

- ☐ 文系、理系に関わらずデジタル人材を育成する点
- ☐ 自分自身で課題発見、設定をし、課題解決に向けた過程を考える点
- ☐ デジタル人材に必須な内容をコアとしている点
- ☐ デジタルスキルをビジネスへ応用するためのスキームを取り入れている点
- ☐ 特にない

新潟大学で構想している大学院の新たなコースに関して、御意見等があればお書きください。

回答を入力

送信

[フォームをクリア](#)

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

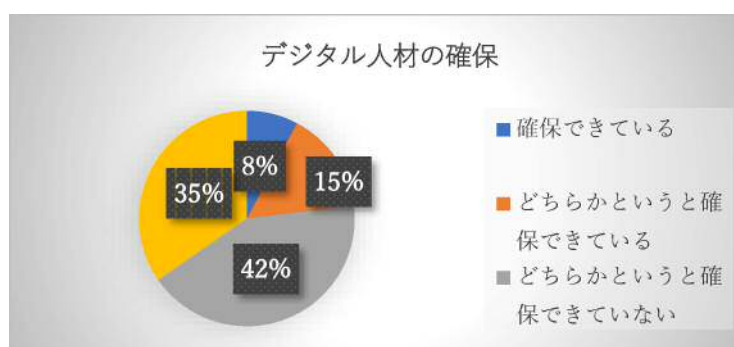
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。 [不正行為の報告](#) - [利用規約](#) - [プライバシーポリシー](#)

Google フォーム

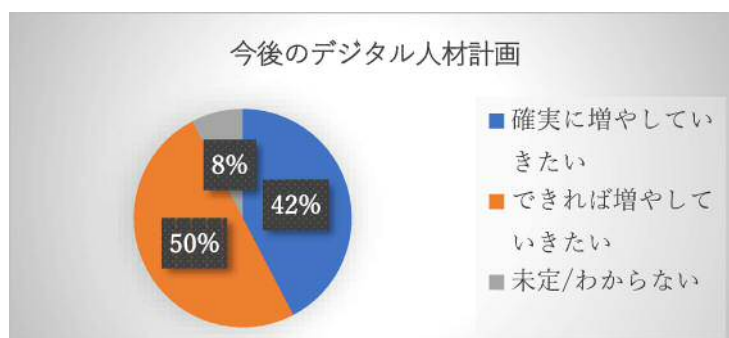


デジタル人材需要に関するアンケート結果

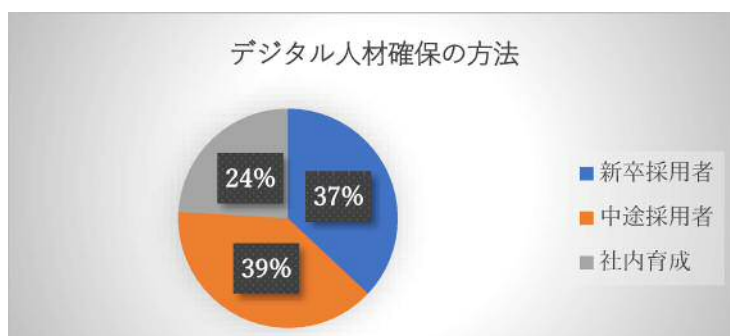
問1 データサイエンスや AI などに精通しデジタルデータ分析ができる人物を、ここではデジタル人材と呼ぶことにします。御社ではデジタル人材を確保できていますか。



問2 今後デジタル人材を増やしていきたいですか。



問3 上記の質問の回答が「確実に増やしていきたい」または「できれば増やしていきたい」と回答された場合、その方法を回答下さい（複数回答可）。



問4 新潟大学で構想している大学院の新たなコースへの期待をお聞かせください

